福岡県散乱ごみ対策事例集

令和7年3月

はじめに

海洋プラスチックごみの約８割は陸域で発生していると言われており、その多くは河川や水路等を通じて海へ流出していると考えられています。

これらのごみの発生を抑制していくためには、河川を含む陸域での対策が極めて重要であり、海岸を有する地域だけでなく、内陸地域から沿岸地域にわたる関係者が一体となって発生抑制対策に取り組む必要があります。このことは、海岸漂着物処理推進法※に基づく「基本的な方針」においても示されています。

福岡県では、令和５、６年度に、県内の５つの河川を対象に、河川及びその周辺の陸域の散乱ごみの状況を調査し、併せて、発生源対策の検討、対策効果の検証等を行いました。調査の結果、河川を通じて流出するごみは季節や時期を問わず一定量存在することが分かっています。

本事例集は、県内の各市町村等に対し、域内の散乱ごみ対策の計画立案及び実施に際し参考となる情報を提供し、対策の実施を支援することを目的としています。

※美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境並びに海洋環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律

目　　次

１．河川ごみ実態把握調査　結果概要　・・・・・1

２．散乱ごみの発生場面　・・・・・6

３．対策事例　・・・・・14

アプローチⅠ　ポイ捨てさせない

対策①　看板　・・・・・15

対策②　プランター　・・・・・21

対策③　除草　・・・・・25

対策④　持ち帰り用ごみ袋の配布　・・・・・29

アプローチⅡ　不法投棄させない

対策①　看板（強い警告等）　・・・・・31

対策②　監視カメラ　・・・・・32

アプローチⅢ　散乱させない

対策①　害獣対策　・・・・・37

対策②　ごみ箱の設置　・・・・・39

アプローチⅣ　ごみを拾う

対策①　清掃活動　・・・・・41

その他の対策　環境教育・啓発　・・・・・43

４．福岡県内の散乱ごみ対策状況　・・・・・45

【別冊】福岡県散乱ごみ対策事例集　資料編

※本事例集に掲載している写真のうち、出典の記載がないものは、「【別冊】福岡県散乱ごみ対策事例集　資料編」から抜粋している。

1 河川ごみ実態把握調査　結果概要

　県内の河川ごみの実態を把握するため、河川を流下するごみ、河川敷の散乱ごみ、河川周辺の陸域散乱ごみ、河川水中のマイクロプラスチックに関する調査を行いました。
　調査は、御笠川（福岡市、大野城市、太宰府市）、釣川（宗像市）、長峡川（行橋市、みやこ町）、建花寺川（飯塚市）、堂面川（大牟田市）の5河川、各3地点で実施しました。また、令和5年度は渇水期（1～2月）、令和6年度は出水期（9～10月）を調査時期としました。
　本事例集では、主に御笠川の調査結果を中心に記載しています。

筒井橋（大野城市）

下川原橋（太宰府市）

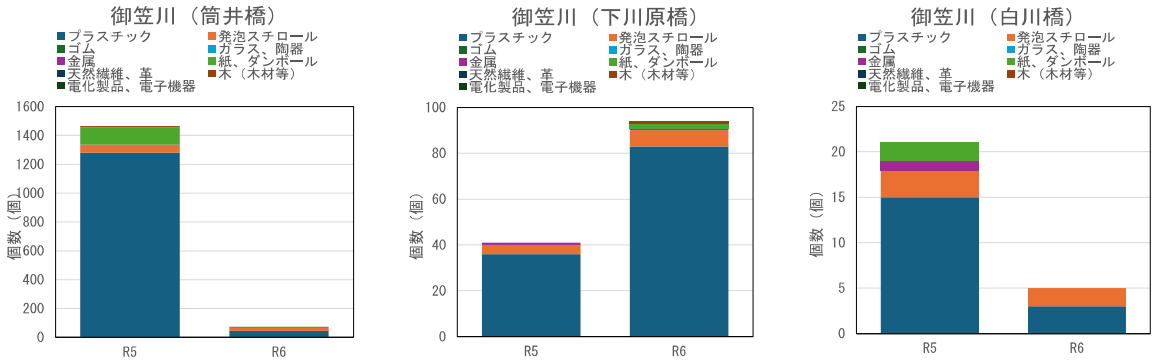
白川橋（太宰府市）

▲【御笠川】調査地点周辺の人口分布（赤い丸が調査地点）

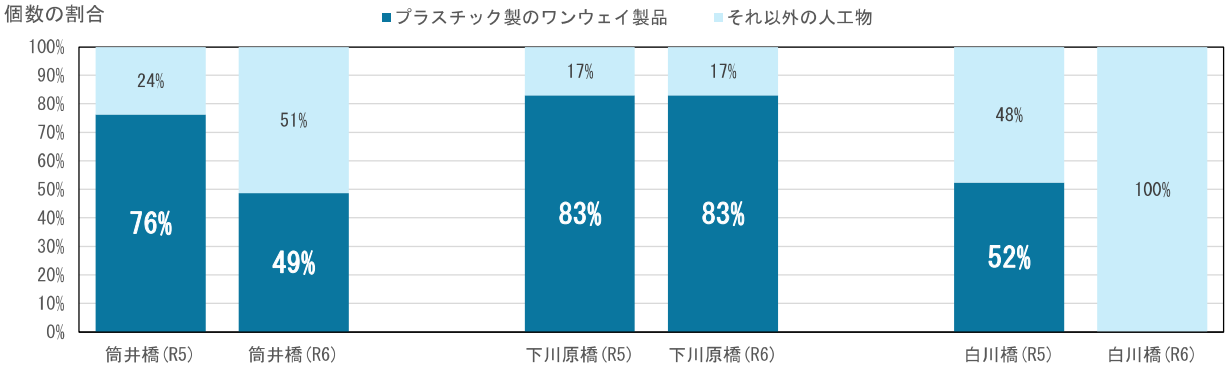
① 河川を流下するごみ調査

【調査内容】
　河川にネットを設置し、流れるごみを捕捉する調査を3日間行いました。捕捉したごみは24時間毎に回収し、個数や組成を調査しました。

【調査結果】
　令和5年度、6年度調査のいずれも、プラスチックごみが多くを占める結果となりました。組成については、調査年度による大きな変化は見られず、調査時期による明確な差も確認されませんでした。なお、筒井橋では、個数が大きく変動していますが、令和5年度調査時は、調査中の降雨の影響で、たばこの吸い殻が多数捕捉された影響によるものです。
　プラスチックごみの組成をみると、使い捨て、いわゆるワンウェイ製品の割合が、概ね50～80%を占めていました。ワンウェイ製品では、ペットボトルや食品容器包装、たばこの吸い殻等が見られました。



▲ 御笠川の組成調査結果（令和5年度と6年度）



▲ プラスチック製のワンウェイ製品の割合（御笠川）（令和5年度と6年度）

ボトルキャップ

ペットボトル

食品容器包装

レジ袋

包装材

たばこの吸い殻

使い捨てマスク

▲ プラスチック製のワンウェイ製品の品目例

【参考】

降雨直後に行った調査では平常時よりも多くのごみが捕捉されました。

降雨に伴う河川の増水による河川敷（低水敷等）からの流入、雨水による陸域からの流入などが主な要因と考えられます。

降雨直後に捕捉したごみ

② 河川敷の散乱ごみ調査

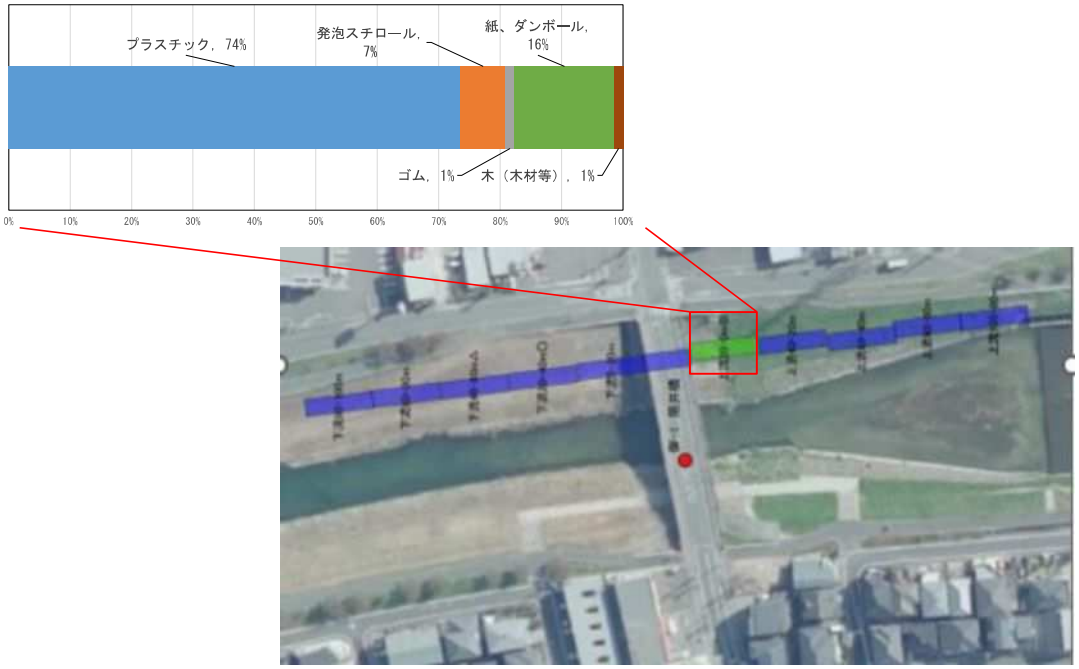
【調査内容】
　河川敷のごみを目視で調査し、ごみの分布のランク付けを行いました。目視で確認したごみ量と右の表を対応させ、区間（1区間200m）の散乱ごみランクを決定しました。
　また、ランクが高い区間のごみを回収し、組成調査を実施しました。

【調査結果】
　御笠川の各調査地点のランクは、概ねTT～２の範囲で、橋梁下やその付近でごみが多くみられました。このうち、ランク２（散乱ごみの量が約10L）の区間で散乱していたごみは、7割がプラスチックごみでした。また、河川敷の草等に引っかかったごみや、中身入りのレジ袋も見受けられました。

● 散乱ゴミ：河川延長方向 10m の範囲で回収したゴミの量（袋量）
● 粗大ゴミ：1 箇所のゴミの量（袋量）

ランク	20L のゴミ袋数量（範囲）	回収した際のゴミの容量のイメージ	容量（L）
0	0 袋	（自然物を除いて）全くゴミがない	0
TT	約 1/16 袋 (1/10 袋以下)	500mL ペットボトルが 1～2 本程度	1. 25
T	約 1/8 袋 (1/10～1/5 袋)	2. 0L ペットボトルが 1 本程度 500mL ペットボトルが 3～4 本程度	2. 5
1	約 1/4 袋 (1/5 ~1/3 袋)	2. 0L のペットボトルが 2 本程度	5
2	約 1/2 袋 (1/3 ~2/3 袋)	2. 0L のペットボトルが 4 本程度 200～350mL の飲料缶が 15 本程度	10
3	約 1 袋 (2/3 ~1.5 袋)	2. 0L のペットボトルが 8 本程度 200～350mL の飲料缶が 30 本程度 ポリタンクならば 1 本分程度	20
4	約 2 袋 (1.5~3 袋)	2. 0L のペットボトルが 16 本程度 ポリタンクならば 2 本分程度	40
5	約 4 袋 (3~6 袋)	2. 0L のペットボトルが 32 本程度 みかん箱ならば 3 箱分程度	80
6	約 8 袋 (6~11 袋)	ドラム缶が 1 本分未満程度	160
7	約 16 袋 (11~23 袋)	ドラム缶が 1. 5 本分未満程度	320
8	約 32 袋 (23~42 袋)	ドラム缶が 3. 0 本分未満程度	640
9	約 64 袋 (42~90 袋)	一立方メートル程度	1280
10	約 128 袋 (90 袋以上)	軽トラで一台分程度	2560

▲ ランク表



▲ 御笠川筒井橋のごみ分布ランク

食品容器包装

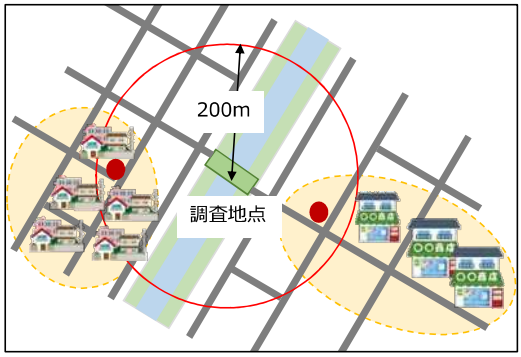
河川敷の草にひっかかったごみ

中身入りのレジ袋

③ 河川周辺の陸域散乱ごみ調査

【調査内容】

河川周辺の陸域における散乱ごみの分布状況を調査しました。調査範囲内（起点から200mの範囲内）における公道、公有地を踏査し、ごみの散乱場所や性状を記録するとともに、ごみ量によるランク付けを行いました。



【調査結果】

- 街中の草木が繁茂している雑種地や暗い雑木林内等、普段人が立ち入らない場所（容易にアクセスは可能）では、粗大ごみや大きめの金属・プラスチックごみを多く確認しました。
- 廃屋・廃事業所には、その場所に起因するものではなく外部からのごみが集まってくる（投棄される）事例もありました。
- 通学路では、菓子包装や飲料ペットボトル・空き缶等も多く確認しました。
- 開放型の側溝（開渠）にごみが散乱・堆積している様子を確認しました。
- 小売店の周辺において、小売店由来のその場で飲食等されたと思われるごみを確認しました。
- 車の交通が多く、歩行者の少ない道路でごみを多く確認しました。生活環境から距離があり、周りからも見えにくい空間であったことから、車からのポイ捨てが主たる要因と考えられます。

雑木林

車の交通が多く、
歩行者が少ない道路

廃事業所

側溝（開渠）

ごみが堆積することもある水路・側溝は街中に張り巡らされています。水路が河川に繋がる部分（水路終端）で、多くの陸域由来ごみを確認できた場所もありました。陸域における散乱ごみは、水路を通って河川へと到達することが分かります。

河川に繋がる水路

水路終端の陸域由来のごみ

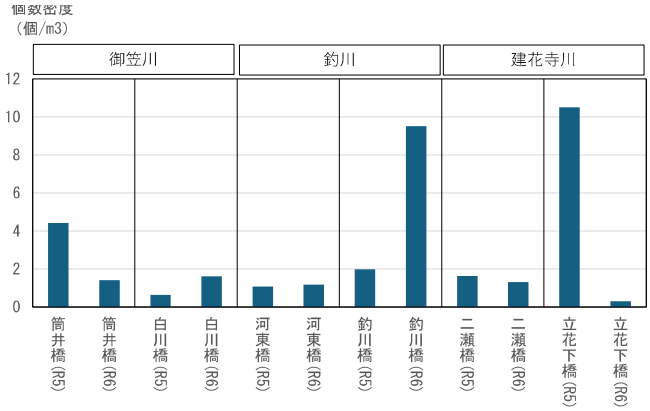
④ 河川水中のマイクロプラスチック調査

【調査内容】

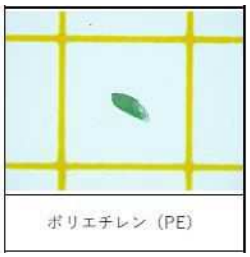
河川水中のマイクロプラスチックを採取し、個数や形状、材質等を調査しました。ここでは、令和5年度と6年度に調査を行った御笠川（筒井橋、白川橋）、釣川（河東橋、釣川橋）、建花寺川（二瀬伊橋、立花下橋）の結果を記載しています。

【調査結果】

調査時期の違いを要因とした個数密度の特徴的な変化はみられませんでした。また、いずれの地点もポリエチレン（PE）やポリプロピレン（PP）の割合が高い結果になりました。これらの素材は、軽くて耐熱性が比較的高い性質を持ち、生活雑貨等の原料として用いられている材質です。これらが、紫外線や風雨等により劣化、微細化することで、マイクロプラスチックの発生要因となっていることが考えられます。



▲ マイクロプラスチックの個数密度



＜PEやPPが使用されている製品例＞
包装材、バケツ、家電部品、食品容器、繊維、日用品等

河川ごみ実態把握調査結果のまとめ

- 河川を流下するごみの多くは、プラスチックごみで、中でもワンウェイプラスチック（使い捨てプラスチック）が50～80%程度を占めていました。
- 河川を流下するごみは、調査前の降雨の影響はあるものの、調査時期の違いを要因とした特徴的な個数の変化はみられませんでした。一方、降雨等で河川水量が増加した時等は、大量のごみが流下する様子が窺えました。
- 河川敷に散乱するごみについても、ごみが多い場所では、河川を流下するごみと同様にプラスチックごみが多くを占めていました。
- 河川周辺の陸域では、雑種地、暗い雑木林等、普段人が立ち入らない場所で、多くのごみを確認しました。通学路では、菓子包装や飲料ペットボトル・空き缶等を、小売店の周辺では、小売店由来と思われるごみを確認しました。また、歩行者が少なく、生活環境から距離があり、周りからも見えにくい道路で車からのポイ捨てと思われるごみを多く確認しました。
- 開放型の側溝（開渠）にはごみが散乱・堆積していました。
- 県内の河川でも、マイクロプラスチックが確認されました。素材は、PEやPPが多く、包装材や食品容器等の生活雑貨に由来するものが原因と考えられます。

2 散乱ごみの発生場面

実態把握調査の結果、散乱ごみが多く確認された場所を、『散乱ごみ発生MAP』としてまとめ、その特徴を整理しました（7、8ページ）。
なお、本調査では、「観光地」、「集客イベント」については、調査対象としておりませんでしたが、散乱ごみが多く発生する場所と想定されることから、本MAPに組み入れています。

本事例集における散乱ごみ

散乱ごみは、個人や企業が製品の購入・使用をした後に、「管理が不十分な製品の散乱（非意図的）」、「ごみステーションからの散乱（非意図的）」、「不法投棄（意図的）」により発生し、陸域で発生したごみが河川に流入することによって海に流れ出ています※。
本事例集は、「ごみステーションからの散乱（非意図的）」、「ポイ捨て等の不法投棄（意図的）」により発生する散乱ごみについてアプローチごとに散乱防止対策をまとめたものです。

※環境省「海洋ごみ発生抑制対策等事例集」より

ごみステーションからの散乱
（非意図的な散乱ごみ）

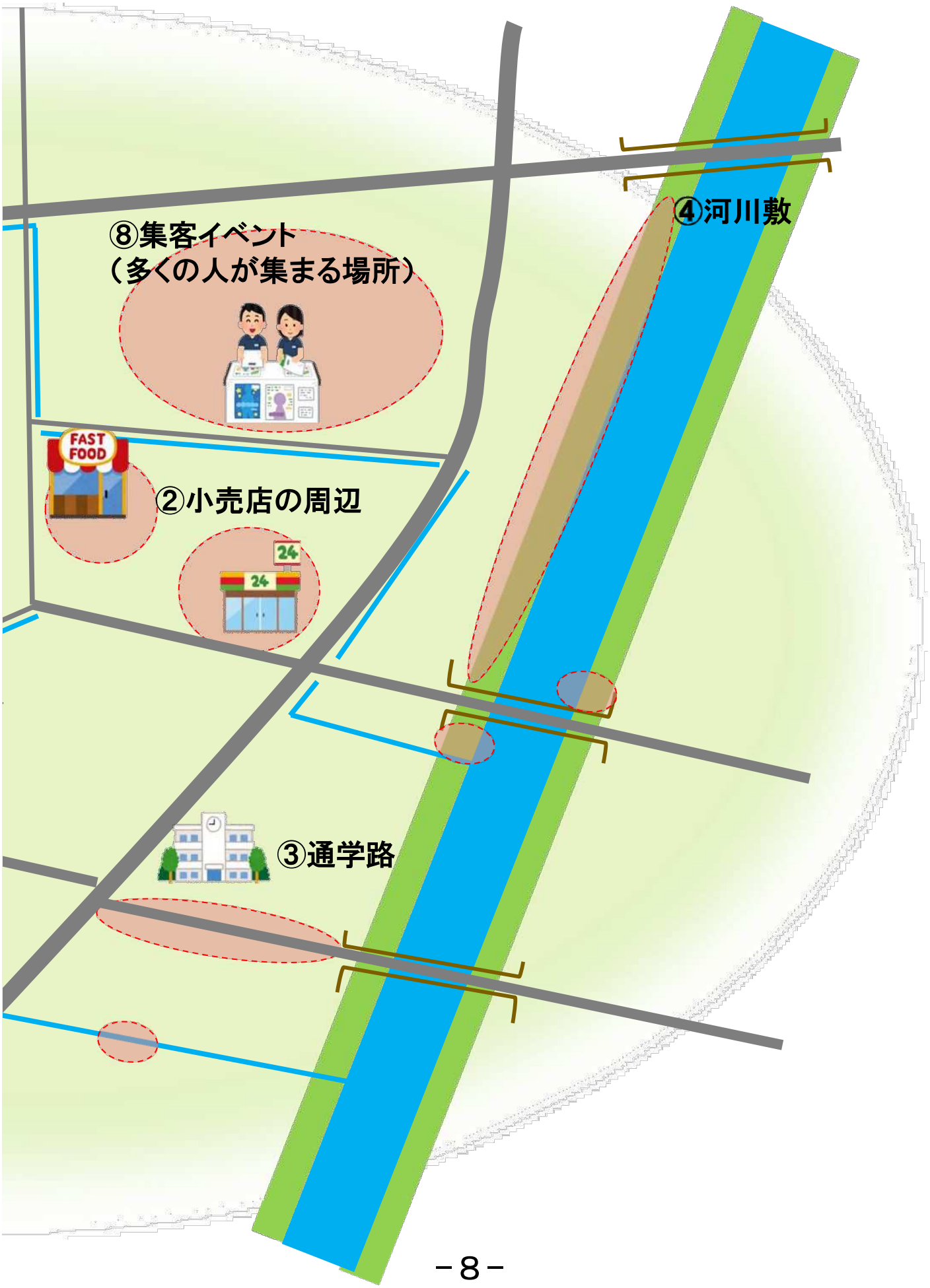
ポイ捨て等の不法投棄
（意図的な散乱ごみ）

・特定の範囲　・観光地
・集客イベント
（多くの人が集まる場所）

４つの対策アプローチ

1．ポイ捨てさせない
2．不法投棄させない
3．散乱させない
4．ごみを拾う

散乱ごみ発生MAP


⑧集客イベント
（多くの人が集まる場所）
④河川敷
FAST FOOD
②小売店の周辺
24
24
③通学路

①　交通量の多い道路

（１）散乱ごみの種類

・レジ袋
・食品容器包装等のプラスチックごみ
・空き缶　等

（２）想定される散乱原因

車の交通が多い反面、歩行者が少なく、生活環境から距離があり、周りからも見えにくい場所にごみが多い。レジ袋にまとめられたごみが見られることから、車からのポイ捨てが想定される。

（３）考えられる対策

・看板（p.15）　　・監視カメラ（p.32）

②　小売店の周辺

（１）散乱ごみの種類

・小売店で販売されている食品の包装容器
・紙屑（レシート等）
・空き缶　等

（２）想定される散乱原因

小売店周辺や近くの植栽等に、小売店で購入し、その場で飲食された後と思われるごみが多く見られることから、店舗利用者によるポイ捨てが想定される。

（３）考えられる対策

・看板（p.15）　　・清掃活動（p.41）

③　通学路

（１）散乱ごみの種類

・近隣の小売店で販売されている商品の包装容器
・使い捨てプラスチックのごみ
・紙屑　等

（２）想定される散乱原因

学生等の通行が多く、通学途中のポイ捨てが想定される。

（３）考えられる対策

・看板（p.15）
・清掃活動（p.41）
・プランター（p.21）

④　河川敷

（１）散乱ごみの種類

・たばこの吸い殻
・使い捨てプラスチックのごみ
・レジ袋に入ったごみ　等

（２）想定される散乱原因

雑草が繁茂していることが多く、捨てられたごみが目立たくなる、夜間は照明が少ない、時間帯によっては人通りが少なくなることがある等により、通行者によるポイ捨てが多いと想定される。

（３）考えられる対策

・看板（p.15）
・除草（p.25）
・清掃活動（p.41）
・プランター（p.21）
・監視カメラ（p.32）

⑤　水路

（１）散乱ごみの種類

・たばこの吸い殻
・劣化したプラスチック容器包装
・空き缶　等

（２）想定される散乱原因

構造上、風雨により他所からごみが集まりやすい場所である。
また、清掃の手が入りにくい場所は長期間ごみが滞留することが想定される。

（３）考えられる対策

・看板（p.15）　　・プランター（p.21）
・清掃活動（p.41）

⑥　人目に付きにくい場所

（１）散乱ごみの種類

・家電製品
・大型ごみ　等

（２）想定される散乱原因

雑木林や山間部の道路等、人の往来が少ない、人目が気にならない場所に、車等で運んできたごみが不法投棄されることが想定される。

（３）考えられる対策

・看板（強い警告等）（p.31）　　・監視カメラ（p.32）
・清掃活動（p.41）

⑦　ごみステーション

（１）散乱ごみの種類

・生活ごみ全般

（２）想定される散乱原因

ごみ出し日時が守られていない、ごみネットの使用が不適切等、ごみステーションが適切に運営されていないことで、害獣被害が発生し、ごみが散乱することが想定される。

（３）考えられる対策

・看板（p.15）　・害獣対策（p.37）

⑧　集客イベント

（１）散乱ごみの種類

・飲食関連のごみ　・レジ袋に入ったごみ
・たばこの吸い殻　等

（２）想定される散乱原因

イベント開催時の一時的に、イベント参加者が使用した飲食容器等が、ごみ捨て場が分からない等の理由によりポイ捨てされることが想定される。また、ごみ箱があった場合でも、想定以上のごみ量が発生した場合、ごみ箱から溢れたごみが散乱することが想定される。

（３）考えられる対策

・持ち帰り用ごみ袋の配布（p.29）　・ごみ箱の設置（p.39）
・清掃活動（p.41）

⑨　観光地

（１）散乱ごみの種類

・飲食関連のごみ　　・レジ袋に入ったごみ
・たばこの吸い殻　等

（２）想定される散乱原因

海外からの観光客などが、ごみ捨て場が分からない等の理由により、持っているごみをポイ捨てすることが想定される。また、ごみ箱があった場合でも、想定以上のごみ量が発生した場合、ごみ箱から溢れたごみが散乱することが想定される。

（３）考えられる対策

・看板（p.15）　　・持ち帰り用ごみ袋の配布（p.29）
・ごみ箱の設置（p.39）　　・清掃活動（p.41）

3 対策事例

散乱ごみへの4つのアプローチ（ポイ捨てさせない、不法投棄させない、散乱させない、ごみを拾う）と、環境教育・啓発について、対策のポイントをまとめています。

アプローチⅠ	ポイ捨てさせない
対策	Ⅰ－①　看板 Ⅰ－②　プランター Ⅰ－③　除草 Ⅰ－④　持ち帰り用ごみ袋の配布
アプローチⅡ	**不法投棄させない**
対策	Ⅱ－①　看板（強い警告等） Ⅱ－②　監視カメラ
アプローチⅢ	**散乱させない**
対策	Ⅲ－①　害獣対策 Ⅲ－②　ごみ箱の設置
アプローチⅣ	**ごみを拾う**
対策	Ⅳ－①　清掃活動

その他の対策	環境教育・啓発

アプローチⅠ　ポイ捨てさせない

対策Ⅰ－①　看板

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路	小売店の周辺	通学路	河川敷	水路
人目に付きにくい場所	ごみステーション		集客イベント	観光地

□ 対策の特徴

看板を設置することで、『視覚的な注意喚起』『心理的プレッシャー』『法的な抑止力』『地域の環境意識の向上』といった効果が期待できます。

看板のデザインやメッセージを工夫することで、さらに効果を高めることができます。例えば、インパクトのあるイラストを使って目立たせる、地域のキャラクターやその土地の特徴を取り入れた親しみやすいデザインにすることなどにより、より多くの人にメッセージが伝わりやすくなります。

□ ポイント

☑ 文字は大きく、短いメッセージにする

自転車や車両に乗った人でも、看板を見た瞬間に内容が理解できるようにします。

☑ 反射材やライトを活用する

暗い場所や夜間でも、看板の内容が認識できるようにします。

☑ ナッジの活用等により行動変容を促す仕掛けを加える

他者の存在を感じるよう目のイラストを入れる等、視線を意識させるデザインにしたり、メッセージを「ポイ捨て禁止」という直接的なものではなく、心理的にポイ捨て抑制を訴えかけるものにする等、人の意思決定に自然に介入するアプローチであるナッジの活用も有効です（p.17参照）。

▲ 看板にナッジを活用した例

☑ 多言語化やピクトグラムを活用する

（国籍等によらず、誰もがメッセージを受け取れるよう工夫します。）

日本語：食べ歩き禁止
英　語：No eating while walking.
韓国語：걷는 동안 먹지 마십시오.
中国語：走路时禁止吃东西
（簡体字）

日本語：リサイクルを心がけよう
英　語：Recycling recommended.
韓国語：재활용 권장.
中国語：建议回收
（簡体字）

▲ ピクトグラム＊＋多言語表記の例

＊出典「持続可能な観光の推進に向けて」（観光庁）https://www.mlit.go.jp/kankocho/responsible-traveler/

※上記ピクトグラムの他にも、観光庁のホームページや（公財）交通エコロジー・モビリティ財団（略称：交通エコモ財団）のホームページで無料で使用できるピクトグラムが公開されています。

○観光庁HP　https://www.mlit.go.jp/kankocho/responsible-traveler/
○（公財）交通エコモ財団HP　https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/pictogram/picto_top2021.html

☑ 設置場所の雰囲気に馴染むデザインにする

（観光地や景観保全区域に設置する場合、周辺の環境と比べて違和感のないデザインが求められる場合があります。）

▲ 高札型のマナー啓発看板＊

＊出典「オーバーツーリズムの未然防止・抑制に関する関係省庁対策会議（第1回）資料」（観光庁）
https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/810002897.pdf

Column

看板のデザイン

看板のデザインを検討する際は、「誰を対象とするか」「どんなごみを対象とするか」を明確にしておくことが重要です。デザイン会社に委託する場合は、設置場所やターゲット、期待する効果などを含めた完成イメージをお互いに共有しながら検討を進めましょう。

- 対象は外国人を含む観光客
- 特にペットボトルのポイ捨てを減らしたい
- ナッジの考え方を取り入れたい

発注者　　デザイナー

- 英語以外の標記は必要？
- 夜でも見えるようにライトをつける？
- イラストメインにする？文字メインにする？

また、近年では、生成AIの活用も可能になりました。AIを使って、イメージ案を複数作成し、そこから実際に作成する看板に落とし込んでいくことも有効です。

生成AIで作成した啓発看板の例

Column

ナッジとは？

ナッジ（nudge）とは「人々の選択肢を奪うことなく、環境を整えることで、本人や社会にとって望ましい行動をするようにそっと後押しする手法」と定義されています。

シカゴ大学のリチャード・セイラー教授が提唱したアイデアで、人々が自然に行動を変えるように導く方法として知られています。近年、この考え方が注目を浴び、政府や企業などが新しい政策手法として注目しています。

ナッジの具体的な手法としては、英国のBehavioural Insights Teams(BIT)が開発した「EAST(イースト)」が良く知られています。EASTは「簡単に(Easy)」、「印象的に(Attractive)」、「社会的に(Social)」、「タイムリーに(Timely)」の頭文字を取ったもので、ナッジの要素が4つの観点と11のポイントに整理されています。

Easy（簡単に）	情報や手続きをシンプルにする
Attractive（印象的に）	メッセージには相手の注意を引くような要素を入れて関心を高める
Social（社会的に）	社会規範を強調する（価値観、行動、期待）
Timely（タイムリーに）	メッセージは個人が行動を変える可能性が最も高いタイミングで提示する

例えば、多くの人は、たばこのポイ捨ては『よくないこと』とわかっていますが、「みんなやっているから」「このくらい大したことないだろう」という認知バイアスに影響されると、ついポイ捨てをしてしまう人も多くいます。

岡山県の高校では、総合学習の活動の一環として、街中に「投票式の吸い殻入れ」を設置しました。これは『この灰皿に捨てることに意味がある』といった認知バイアスをうまく刺激するメッセージを活用したナッジであると考えられます。また、吸い殻の数が外から見えるよう可視化していることで「みんながきちんと灰皿に捨てている」という同調心理がはたらき、より灰皿に捨てやすくなります。

実際、設置前と設置後に、吸い殻入れ周辺の吸い殻のポイ捨て状況を調査したところ、ポイ捨て状況が改善したとの結果も出ています。

『ポイ捨てをやめよう』と言われても、すぐに効果が現れることは難しいですが、ナッジを使うことで望ましい行動に踏み出しやすくさせた好事例と言えます。

▲ 投票式の吸い殻入れ

□ 対策フロー

設置場所の確認	・対策の候補場所の状況を確認 例　既設の看板の有無、新たに看板を設置するスペースの有無、設置に支障となる構造物の有無等
↓	
設置場所の決定	・看板を効果的に活用できる環境の整備 例　既に散乱ごみが多い場合は事前に清掃する、草が繁茂している場合は除草をする等
↓	
関連部局との調整	・設置場所の管理者等との調整（必要があれば許認可申請） 例　・河川管理者・道路管理者・土地所有者 ・河川愛護団体・地元自治会 ・地元の水利組合　等
↓	
看板デザインの決定	・設置する看板のデザインを検討 誰に向けたメッセージか、ターゲットを明確化
↓	
看板の制作	・看板製作者へ依頼 例　制作会社へ委託、庁舎内で作成等
↓	
看板の設置	・予定場所に設置 看板の大きさや、設置場所の地盤によっては、重機が必要になる場合あり
↓	
効果の確認・検証・改善	・効果検証 効果が出ない場合は、対策内容を改善、見直すことも必要

資料編		
	No.2	若手職員による国道１号谷稲葉ＩＣ ゴミのポイ捨て対策について
	No.3	ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」
	No.4	行動経済学のナッジを使ったカラス対策
	No.6	プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言

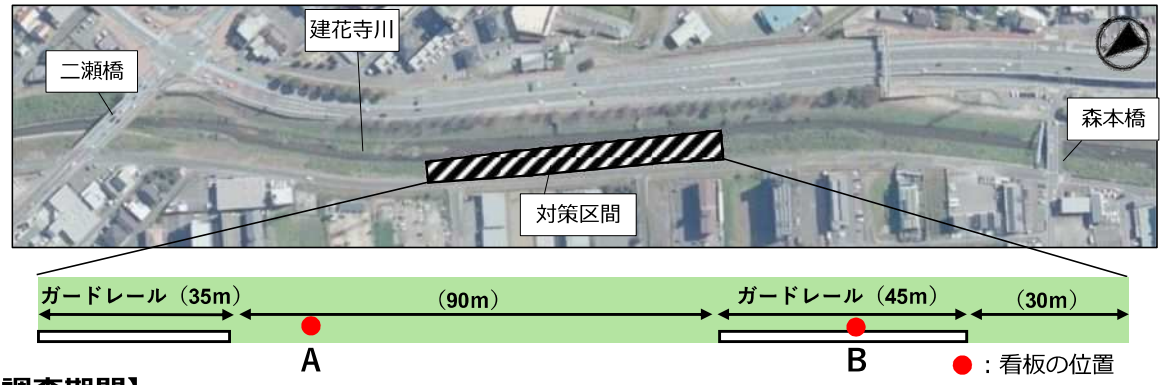
実証試験

✦看板設置による発生抑制対策効果の検証

看板の設置による発生抑制対策効果を検証するために実証試験を行いました。

【調査地点】

飯塚市内を流れる河川（建花寺川）の森本橋-二瀬橋間の河川敷（左岸側）200m区間（下図における“対策区間”）

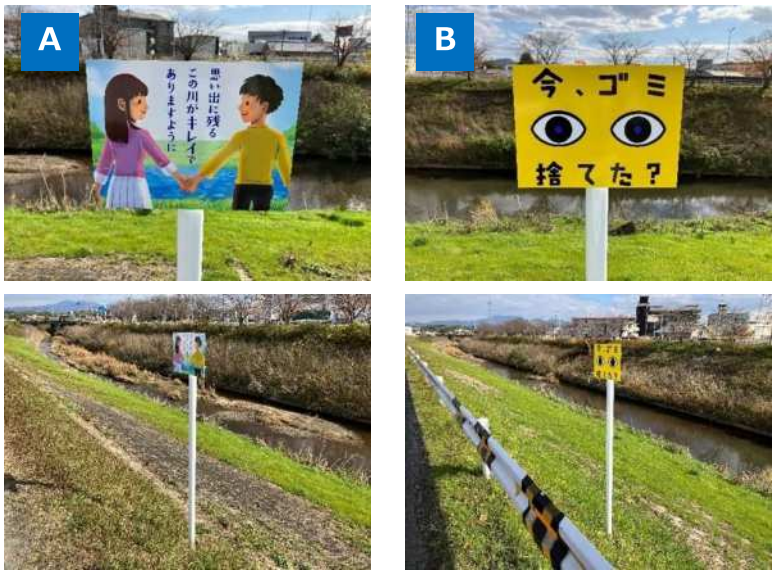


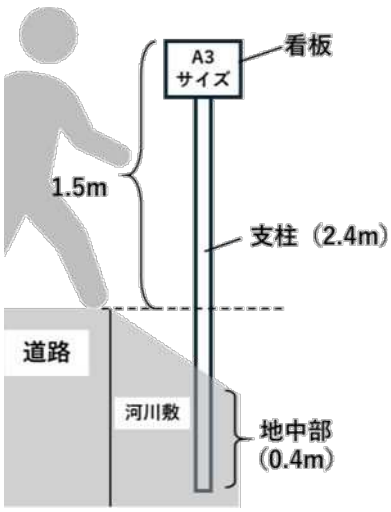
【調査期間】

令和6年12月6日～12月26日　の21日間（3週間）
※上記期間以外にも、調査地点にて何も対策を施さない「ベースライン調査」の他、その他実証試験を実施（いずれも調査期間は3週間）

【調査方法】

- 調査開始前日に、看板2基を設置。位置は対策区間を二分した各区間の中央とした。（調査地点は除草された状態を維持）
- 看板はそれぞれ別のデザインとし、“ポイ捨て禁止”などの直接的な文言ではなく、個人の社会規範（美観意識）に訴える内容や他者の目を想起させる内容を意識して作成
- 概ね3日に1回の頻度で現地調査を実施し、目視によりごみの種別や個数を確認



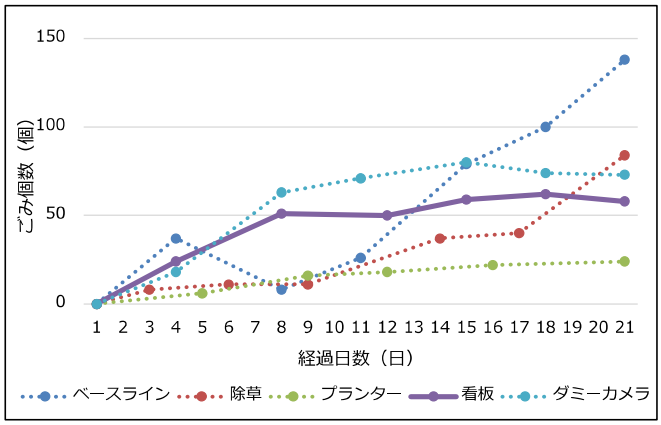


各看板のデザインと設置状況

【調査結果】

看板の設置による発生抑制対策効果について、今回の検証では右のような結果が得られました。

同地点で実施したベースライン調査、及びその他の実証試験（除草、プランター設置及びダミーカメラ設置）の結果と比較しています。



- 調査最終日のごみの個数を比較すると、看板設置時はベースライン調査時よりもごみの個数が減少（138個→58個）しました。なお、ごみ個数の内訳は、看板A周辺が42個、看板B周辺が16個でした。
- 今回の実証試験で効果検証を行った４つの対策の中では、プランターの次に高い発生抑制効果がみられました。なお、調査は調査地点が除草された状態で実施したため、効果は除草によるものも含まれます。

«実施時の気づき»

一口に看板と言っても、内容、看板の素材、設置方法などで発揮される効果が変化するものと考えられます。

- 対象者によってデザインや配置を変える（車両向けの看板の場合、文字やイラストを大きく配置する、運転手の目線に入りやすい場所、高さに設置する　等）
- 景色に溶け込んでしまう配色は避ける
- 反射性の素材を使用する、街灯の周辺に設置するなど、夜間での視認性の向上　等

禁止事項を正面に出した内容は、時に反作用を生じることが知られています（“ポイ捨て禁止”などの標語の設置が逆に投棄行動に繋がってしまう　等）。

なお、調査地点の既存看板（右図）については、ベースライン調査時を除き、撤去した上で調査を実施しました。

調査地点の既存看板
（調査期間中は現地から撤去）

<u>調査時のコストなど</u>

看板製作：1基当たり228,000円（デザイン、製作費用を委託）
作業工数：看板設置用の穴掘り（要穴掘り用スコップ）及び看板の設置に作業員２名で1時間程度

対策Ⅰ－②　プランター

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路	小売店の周辺	通学路	河川敷	水路
人目に付きにくい場所	ごみステーション	集客イベント	観光地	

□ 対策の特徴

　プランターを設置することで、『視覚的な障壁』や『環境美化』等の効果が期待できます。また、プランターの維持管理を地域と連携して行うことで、『地域コミュニティへの所属意識の醸成』にも繋がります。
　プランターを設置する場合は、高さや設置間隔のほか、地域性にあったメッセージを貼付する等の工夫を取り入れることで、多くの人に馴染みやすい啓発になると考えられます。

□ ポイント

☑ 車や歩行者が認識できるプランターを選定する

車や遠くの歩行者も認識できるよう、高さのあるプランターを選定したり、専用のスタンドを取り付ける等で、人目につくように工夫します。

▲ スタンドを取り付けたプランター

☑ 管理者の存在を示す

その場所を管理している人がいることを知らせることは、ポイ捨て行為の抑制に繋がります。看板等を併設し、プランターや植栽が手入れされていることを示すことが考えられます。

▲ 横断幕を掲示して管理者の存在を示した例

☑ 地域住民や学生の関与を示す

地域で守っている場所であることを示すことで、地域コミュニティへの所属意識の醸成にも繋がります。住民や学生に、標語、メッセージなどを考えてもらい、プランターに併設することも有効です。

▲ メッセージ付のプランター

Column

花によるポイ捨て抑制効果とは？

ポイ捨て抑制心理の構造の１つに「ダブルブレーキ仮説*」モデルが提唱されています。これは、罪悪感やその行為の恥ずかしさを惹起させる「情緒的ブレーキ」と、違反行為をしてはいけないという「認知的ブレーキ（道徳意識+努力志向的価値観）」が掛け合わさって、ポイ捨て抑制心理が働くことが特徴となっています。

花を植えるなどで周囲の景観を美化しておくと、そこでポイ捨て行為が、綺麗な場所を汚してしまうことを連想させ、情緒的ブレーキを強く踏ませることに繋がります。これにより、ポイ捨て抑制心理がより強く働くことが推測されます。

花による景観美化はここに作用

心のブレーキの強さ（ポイ捨て抑制心理）＝ 情緒的ブレーキ：景観を汚す罪悪感・恥の意識 × 認知的ブレーキ：迷惑行為はしてはいけない

出典「河畔におけるごみのポイ捨て対策」（廃棄物資源循環学会誌、Vol.29,No.4,2018）

□ 対策フロー

設置場所の確認	・対策の候補場所の状況を確認 例　設置スペース、設置に支障となる構造物の有無等
設置場所の決定	・周辺の状況を確認 例　既に散乱ごみが多い場合は事前に清掃する、草が繁茂している場合は除草をする等
関連部局との調整	・設置場所の管理者等との調整（必要があれば許認可申請） 例　・河川管理者・道路管理者・土地所有者 ・河川愛護団体・地元自治会 ・地元の水利組合　等
資材の決定	・設置するプランターと花苗を決定
プランターの設置 定期的な手入れ	・予定場所に設置 定期的に水やり等を行い景観を保つ
効果の確認・検証・改善	・効果検証 効果が出ない場合は、対策内容を改善、見直すことも必要

資料編
No.11　まちかど花壇
No.12　街角花いっぱいボランティアグループ

実証試験

✦プランターの設置による発生抑制対策効果の検証

花苗を植栽したプランターの設置によるごみ発生抑制効果を検証するために実証試験を行いました。

【調査地点】

飯塚市内を流れる河川（建花寺川）の、森本橋-二瀬橋間の河川敷（左岸側）200m区間（下図における“対策区間”）

●：プランターの位置

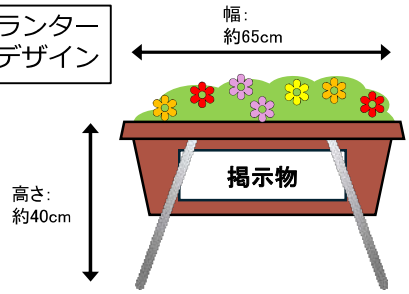
【調査期間】

令和6年11月14日～12月4日　の21日間（3週間）
※上記期間以外にも、調査地点にて何も対策を施さない「ベースライン調査」の他、その他実証試験を実施（いずれも調査期間は3週間）

【調査方法】

- 調査開始前日に、花苗を植栽したプランター22基を、対策区間のガードレールの無い部分に等間隔に配置（調査地点は除草された状態を維持）
- プランターの視認性を高めるためスタンドを併用。また、啓発用のメッセージを記載した掲示物を貼付
- 概ね3日に1回の頻度で現地調査を実施し、目視によりごみの種別や個数を確認

プランターのデザイン



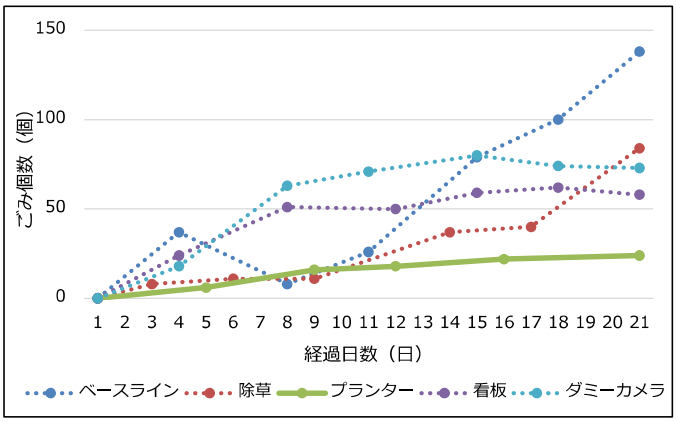
掲示物（例）

設置状況

設置状況

【調査結果】

プランター設置による発生抑制対策効果について、今回の検証では右のような結果が得られました。



- 調査最終日のごみの個数を比較すると、プランター設置時はベースライン調査時よりもごみの個数が大きく減少（138個→24個）しました。
- 今回の実証試験で効果検証を行った４つの対策の中では、最も高い発生抑制効果がみられました。なお、調査は調査地点が除草された状態で実施したため、効果は除草によるものも含まれます。

«実施時の気づき»

- 左下の写真のように、未除草エリアにプランターを設置した場合、その効果は薄れてしまう可能性があります。プランターや植栽による対策を実施する場合、事前の除草、設置中の適切な管理を行うことが望まれます。
- 今回の調査は3週間と短い期間でしたが、長期間の設置を想定する場合、定期的な管理や植栽する植物（花の場合は花期も）等を検討する必要があります。

<u>調査時のコストなど</u>

準備費用：プランター、スタンド、花苗、培養土、鉢底石、掲示物、杭など、22基で合計80,609円（1基あたり3,664円）
植栽作業：プランターへの植栽及びプランター設置に作業員3名で半日程度
そ の 他 ：調査期間中、概ね３日ごとに水やりを実施
22基の水やりに１名で30分程度（降雨の状況により調整）

対策Ⅰ－③　除草

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路	小売店の周辺	通学路	河川敷	水路
人目に付きにくい場所	ごみステーション	集客イベント	観光地	

□ 対策の特徴

雑草が繁茂していると、ポイ捨てされたごみが見えにくくなることがあります。ごみが見えにくいと、拾う機会が失われ、長時間そこにとどまり続けることが懸念されます。また、捨てられたごみが草の中に隠れることで、ポイ捨ての心理的ハードルが下がり、よりポイ捨てされやすい場所となります。

□ ポイント

☑　除草前にごみを拾う

機械を使って除草すると、そこにあるごみを破断してしまいます。破断したごみは回収が難しくなるため、事前にごみを回収しておくことが望まれます。

▲ 除草前のごみの散乱状況

事前にごみを回収せずに除草実施

▲ 機械で破断したごみ

□ 対策フロー

実施場所の確認	・実施の状態や、刈り取った草の搬出経路を確認
関連部局との調整	・実施場所の管理者等との調整（必要があれば許認可申請） 例　・河川管理者・道路管理者・土地所有者 　　・河川愛護団体・地元自治会 　　・地元の水利組合　等
ごみ拾い	・除草前にごみを拾う
除草の実施	・刈り取った草は回収し域内の処理方法に従って処分
効果の確認・検証・改善	・効果検証 効果が出ない場合は、対策内容を改善、見直すことも必要

アプローチー　ポイ捨てさせない

資料編		
	No.2	若手職員による国道１号谷稲葉ＩＣ ゴミのポイ捨て対策について
	No.14	おねがい 用水や川に刈草を流さないで！
	No.15	河川ごみ等回収促進事業（おかやま河川ごみ一掃大作戦）

実証試験

✦除草による発生抑制対策効果の検証

河川敷の除草によるごみ発生抑制効果を検証するために実証試験を行いました。

【調査地点】

飯塚市内を流れる河川（建花寺川）の森本橋川-二瀬橋川間の河川敷（左岸側）200m区間（下図における“対策区間”）

【調査期間】

令和6年10月23日～11月12日　の21日間（3週間）

※上記期間以外にも、調査地点にて何も対策を施さない「ベースライン調査」の他、その他実証試験を実施（いずれも調査期間は3週間）

【調査方法】

- 調査開始の前日までに、対策区間全域の雑草（樹木を含む）を伐採し、地面から5cm程度の草丈で刈り揃え
- 刈草などは、全量を現地から撤去
- 調査期間中、概ね3日に1回のペースで現地調査を実施。目視によりごみの種別や個数を確認

除草作業

除草作業

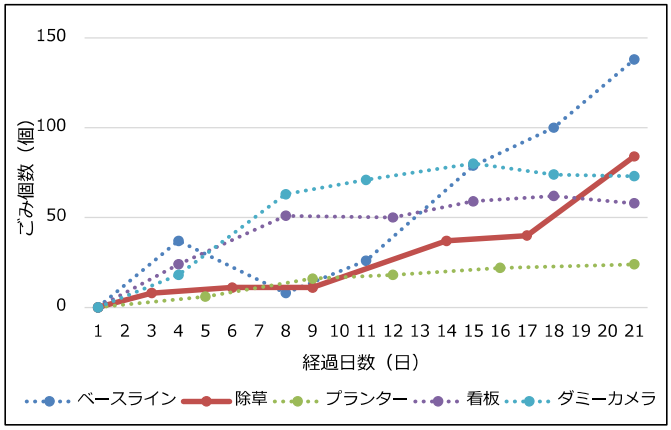
除草前

除草後

【調査結果】

除草による発生抑制対策効果について、今回の検証では以下のような結果が得られました。

同地点で実施したベースライン調査（前述）、及びその他対策メニューの結果と並べています。



- 調査最終日におけるごみの個数で比較すると、除草時ではベースライン調査時よりもごみの個数の減少（138個→84個）しました。
- 除草による景観の改善等の効果に加えて、適切な発生抑制対策を実施すると、より良い効果が期待できると考えられます。

«実施時の気づき»

- 調査時、調査地点周辺にて別の除草作業が実施されており、伐採機により破砕され細かくなったごみ、袋が破られ中身が散乱したごみが多く残されてしまっていました。河川敷の除草の際には、可能な限り事前に、ごみ拾いを併せて実施することが重要です。

除草作業により破断されたごみ

除草作業により破袋された袋ごみ

<u>調査時のコストなど</u>

除草範囲：約200m×約15m（全面に渡って立木や丈の長い草が繁茂している状態）
作業内容：除草、樹木伐採、刈草撤去、除草範囲の散乱ごみの回収
作業工数：作業員は1日あたり5～6名で約5日間。草刈り機のほか、樹木伐採用のチェーンソーを使用。作業コスト：実証試験では外部機関（費用は545,300円）。

対策Ⅰ－④　持ち帰り用ごみ袋の配布

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路	小売店の周辺	通学路	河川敷	水路
人目に付きにくい場所	ごみステーション	集客イベント	観光地	

□ 対策の特徴

外出先で発生したごみは自宅に持ち帰ることが基本です。しかし、特に飲食系のごみは、ごみ箱等が近くにない場合、ごみとなった時点でその場でポイ捨てされてしまうことが多くあります。

例えば、外出先でもごみを持ち帰ってもらえるよう、来場者に向けて専用のごみ袋を配布するなどの工夫をすることで、散乱ごみの発生を抑制できると考えられます。

□ ポイント

☑ ごみ袋を配布し、近隣店舗で回収する

観光地や集客イベントで発生するごみの特徴として、飲食物の包装や容器が多く含まれます。これらのごみは、使用が終わると家庭まで持ち帰られにくいため、近くで適切に処理ができることが重要です。
実際に、観光地において、観光客専用のごみ袋を販売し、集めたごみについても店舗で引き取る取組を行っている例があります。

観光などで訪れる方々のごみを受け入れるため「観光客専用ごみ袋」を販売

ごみが入ったごみ袋はステッカーが貼られた店舗等において引き取りを実施

▲店舗でのごみ袋配布・回収の例（北海道羅臼町）

Column

ガベッジバッグ

「ガベッジバッグ」とは、元々登山中に出たごみを適切に持ち帰るためのアイテムです。防水性と気密性に優れた素材を使用しているため、ごみの水分や臭いが外部に漏れ出るのを効果的に防ぐことができます。

外出先のごみ袋にも、機能性やデザインや持たせることで、より持ち歩きに適した性能や、繰り返し使用できるものとして活用が期待されます。

□ 対策フロー

配布場所の確認	・配布場所、必要枚数を確認 ・回収したごみの処理方法を検討
関連部局との調整	・配布場所の管理者等との調整（必要があれば許認可申請） 例　・廃棄物処理担当部局　・地元観光協会 ・イベント主催者　・地元自治会 ・地元商工会　等
ごみ袋の準備	・ごみ袋のデザインやサイズの決定 ・分別区分の検討
ごみ袋の配布	・配布する際に、回収場所についても周知
効果の確認・検証・改善	・効果検証 効果が出ない場合は、対策内容を改善、見直すことも必要

資料編

No.16　観光客専用ごみ袋

アプローチⅡ　不法投棄させない

対策Ⅱ－①　看板（強い警告等）

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路	小売店の周辺	通学路	河川敷	水路
人目に付きにくい場所	ごみステーション	集客イベント	観光地	

□ 対策の特徴

看板を設置することで『視覚的な注意喚起』『心理的プレッシャー』『法的な抑止力』『地域の環境意識の向上』といった効果が期待できます。

看板のデザインやメッセージを工夫することで、さらに効果を高めることができます。恒常的に不法投棄が続いている場所など、違法性が高い場所では、例えば、罰則が目立つよう文字の配色を工夫する、警察署名を併記する、監視されていることを意識させる内容にすること等が考えられます。

□ ポイント

☑　罰則や監視中であることを強調する

「不法投棄禁止」のように禁止事項のみを示した看板では投棄の抑制効果は薄いと考えられます。看板に、罰則や通報先となる警察署を明示することで、不法投棄の犯罪性を強く意識づけることができます。
また、監視カメラ設置や定期的なパトロール実施を示すことでも、投棄を思いとどまらせる効果が期待できます。なお、警察署名を記載する際は、事前に手続きが必要な場合がありますので、最寄りの警察署の確認が必要です。

▲看板の例

□ 対策フロー

対策Ⅰ－①（18ページ）を参照してください。

資料編

No.2	若手職員による国道１号谷稲葉ＩＣ ゴミのポイ捨て対策について
No.3	ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」

対策Ⅱ－②　監視カメラ

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路	小売店の周辺	通学路	河川敷	水路
人目に付きにくい場所	ごみステーション	集客イベント	観光地	

□ 対策の特徴

監視カメラの設置によって、人々は自分の行動が記録される可能性を意識します。この「見られている」という意識が、不法投棄などの不正行為を抑止する効果があります。また、万が一不法投棄が発生した場合でも、監視カメラの映像が証拠として残ります。これにより、犯人の特定や再発防止策の検討が容易になります。

□ ポイント

☑ 監視カメラの存在を周囲に知らせる

監視カメラを設置するだけでは、十分な効果を得ることはできません。監視されている意識を持たせるために、監視カメラがある旨の警告看板を掲示することが有効です。

☑ ライトを併設する

夜間でも監視カメラの存在を認識できるよう、ライトを併設します。また、監視カメラの設置が難しい場合は、センサーライト等を設置することによっても、周囲に見られている意識を起こさせる効果が期待できます。

▲監視カメラに取り付けたライト

☑ ダミーカメラを活用する

電源の確保が難しい場所では、代わりにダミーカメラを設置することも有効です。カメラの存在自体が、不法投棄の抑止に繋がります。

Column

監視カメラ設置の留意点

- 赤外線暗視型の防犯カメラを設置する場合、赤外線の届く距離は、屋外カメラでも25～30m、一般的なもので15m程度です。
- 実際に撮影できる範囲は、「最大照射距離表示の半分程度」と考えて設置場所を検討してください。
- 一方向のみに設置していると、センサーが反応した時には通り過ぎている場合があるため、反対向きにももう1台設置すると、撮影成功率の向上が見込まれます。
- バッテリー消耗や記録容量の削減のため、風で揺れる草木等、対象以外で動くものがなるべく写り込まないように設置します。
- 民家の窓、公衆トイレ付近等、対象者以外が写りこまないよう、場所や角度に配慮します。
- 盗難やいたずら防止のため、手が届きにくい高さに設置します。

Column

福岡県防犯カメラの設置及び運用に関するガイドライン

福岡県では、防犯カメラの有用性とプライバシー保護との調和を図り、防犯カメラの設置者がカメラを適切かつ効果的に活用できるよう、ガイドラインを策定しています。

ガイドラインには、撮影範囲や管理責任者の指定等、設置にあたって配慮事項がまとめられています。

設置者等には、次のような責務があります。

設置者等の責務

①撮影された画像の適正な管理
②撮影された画像の提供の制限
③苦情への対応
④その他防犯カメラの適正な設置及び運用に関し、必要な措置を講じること。

出典　https://www.pref.fukuoka.lg.jp/gyosei-shiryo/cameraguideline.html

□ 対策フロー

設置場所の確認	・監視カメラの設置が可能か確認 ・電源が必要な場合は、仮設電柱を建てる場所の確認
↓	
設置場所の決定	・監視カメラを効果的に活用できる環境の整備 例　既に散乱ごみが多い場合は事前に清掃する、草が繁茂している場合は除草をする　等
↓	
運用手順の作成	・監視カメラ運用の手順書を作成 ・責任者や管理方法を明確にする
↓	
関連部局との調整	・設置場所の管理者等との調整（必要があれば許認可申請） 例　・河川管理者　・道路管理者 ・土地所有者　・河川愛護団体 ・地元自治会　・地元の水利組合　等
↓	
機材の設置	・仮設電柱が必要な場合は、その手配を行う
↓	
効果の確認・検証・改善	・効果検証 効果が出ない場合は、対策内容を改善、見直すことも必要

資料集		
	No.2	若手職員による国道１号谷稲葉ＩＣ ゴミのポイ捨て対策について
	No.3	ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」
	No.5	茨城県内における不法投棄対策
	No.10	廃棄物の不適正処理事案（不法投棄、不適正残土等）広域連携ホットライン協定の締結

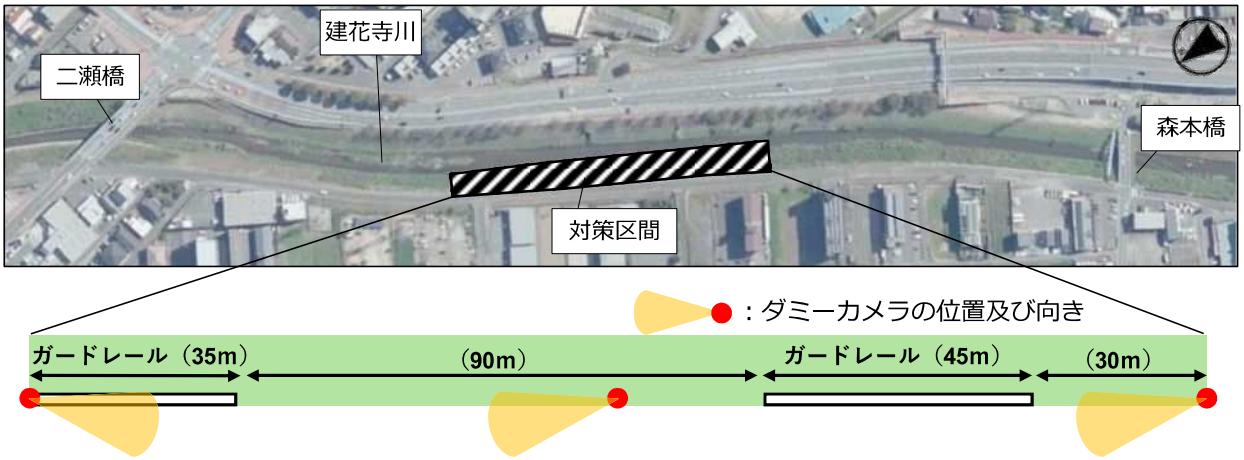
実証試験

✦ダミーカメラの設置による発生抑制対策効果の検証

ダミーカメラの設置によるごみ発生抑制効果を検証するために実証試験を行いました。

【調査地点】

飯塚市内を流れる河川（建花寺川）の森本橋川-二瀬橋川間の河川敷（左岸側）200m区間（下図における“対策区間”）

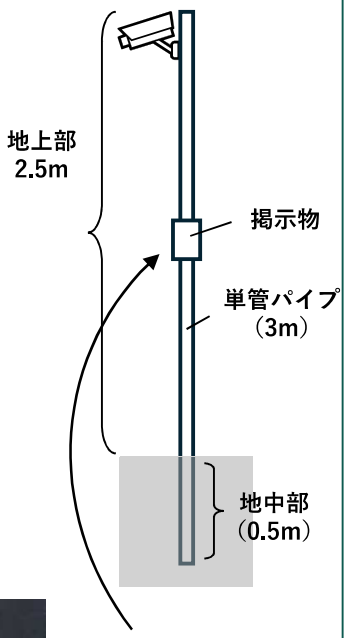


【調査期間】

令和7年1月7日～1月27日　の21日間（3週間）
※上記期間以外にも、調査地点にて対照として対策を実施しない「ベースライン調査」の他、その他対策メニューによる調査を実施（いずれも調査期間は3週間）

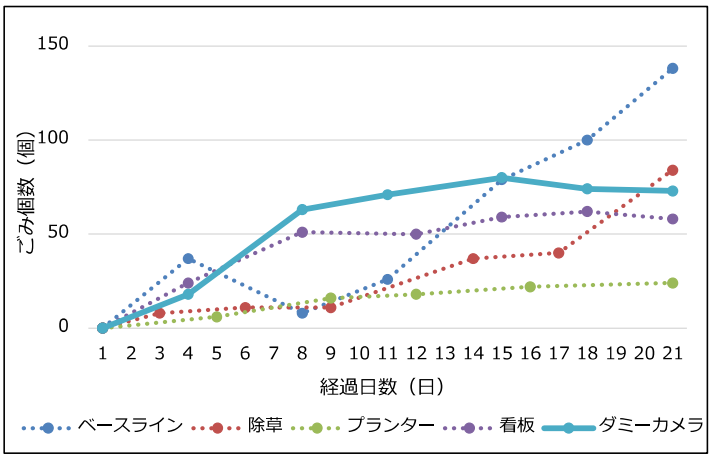
【調査方法】

- 調査開始前日に、ダミーカメラ（撮影・録画機能無し、夜間に通行があった場合センサ感知し点灯するもの）3基を、対策区間の両端及び中央に設置（調査地点は除草された状態を維持）
- ダミーカメラ単体では景色に溶け込んで気づかれない可能性があるため、目立つ色の掲示物を作成し、設置用のポールに貼付
- 調査期間中、概ね3日に1回のペースで現地調査を実施。目視によりごみの種別や個数を確認



【調査結果】

ダミーカメラの設置による発生抑制対策効果について、今回の検証では右のような結果が得られました。



- 調査最終日のごみの個数を比較すると、ダミーカメラ設置時はベースライン調査時よりもごみの個数が減少（138個→73個）しました。
- ダミーカメラの設置により、一定の発生抑制効果が確認できました。なお、調査は調査地点が除草された状態で実施したため、効果は除草によるものも含まれます。

«実施時の気づき»

- 調査期間中には、ダミーカメラの至近距離（ダミーカメラが向いていない方向）にてまとまったごみの投棄が確認されることがありました。ダミーカメラには監視効果による発生抑制効果の反面、効果が期待できる範囲が限られる、ダミーだと認識されると効果が期待できないという性質が付随します。
- 掲示物を併用する場合、反射性の材料を使用した方が、夜間の視認性向上に繋がります（今回の試行では、紙面印刷したものをラミネート加工して使用したため、夜間の視認性が不十分だった）。

調査期間（夜間）の様子

ダミーカメラの至近距離（カメラの向きと反対側）に投棄されたごみ

<u>調査時のコストなど</u>

準備費用：ダミーカメラ、単管パイプ、掲示物として20,425円（1基あたり6,808円）
作業工数：ダミーカメラ設置用の穴掘り（要穴掘り用スコップ）及びダミーカメラの設置に作業員２名で1時間程度

アプローチⅢ　散乱させない

対策Ⅲ－①　害獣対策

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路	小売店の周辺	通学路	河川敷	水路
人目に付きにくい場所	ごみステーション	集客イベント	観光地	

□ 対策の特徴

ごみステーションにおいて、地域で定められた日時以外にごみ出しがなされたり、防鳥ネットの使用が不十分な場合などに、猫やカラス等がごみ袋をつついて、袋の中のごみを周囲に散乱させてしまうことがあります。
防鳥ネットの適切な使用や、ごみステーションの適切な管理・運営を行うことにより、害獣による散乱ごみの流出を防ぐことができると考えられます。

□ ポイント

☑ ごみステーションの適正な利用を徹底する

地域で定められた持ち込み日時等のルールが遵守されるよう、利用者に対し周知を行い、適切に管理します。

☑ 防鳥ネットの使用

ごみステーションが路上型や開放型の場合は防鳥ネットを使用します。その際、ごみが溢れないよう、地区で排出されるごみ量より少し余裕を持たせたサイズのネットを使うことが望ましいです。使用の際は、ごみがはみ出さないよう適切なかけ方を徹底します。
また、強風、猫やカラス等にめくられないよう、端部に重りをつけるなどの工夫も有効です。ネットの形状についても袋状やボックス型等があるので、設置場所に応じて適切なものを選定します。

▲袋状にしたネット

▲マチを持たせたネット＊

▲ボックス型のネット＊

＊出典 「海洋ごみ発生抑制対策等事例集」（環境省） https://www.env.go.jp/content/900543328.pdf

☑ ごみ袋の中身が見えないようにする

カラスは目で食べ物を識別するといわれています。新聞紙で中身を隠す等、外側からごみ袋の中身が判別できないよう工夫することも有効です。

Column

ごみネットの使い方

　ごみネットの効果的な使い方を紹介している自治体もあります。例えば、北九州市では、市HPにおいて、袋タイプのネットの作り方・使用例を画像を交えて紹介しています。

〇袋タイプの防鳥ネットの作り方！
https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/000981212.pdf

▲平面のネットを袋状に加工

Column

カラスとごみ

　私たちがカラスとして日常的に認識しているのは「ハシブトガラス」と「ハシボソガラス」の２種です。特に「ハシブトガラス」は都会に生息し、ごみ荒らしで問題になっているカラスです。
　カラスは目で食べ物を識別するといわれており、生ごみ等が袋の外から見える状態だと被害に合う可能性が高くなります。対策として、カラスがものを識別する際に重要な役割を果たしているといわれる、紫外線をカットする効果がある特殊な顔料が練りこまれたフィルムで作ったごみ袋を活用した事例もあります。

▲特殊な顔料を使ったごみ袋

□ 対策フロー

資材の準備 設置場所の確認	・ごみネットの種類を検討 ・ネットを設置する場所を確認
↓	
関係部署との調整	・設置場所の管理者等との調整 例　・地元自治会　・土地所有者　等
↓	
対策の実施	・所定の場所に設置 ・めくれ防止や、カラスからのつつかれ防止策を施す
↓	
効果の確認・ 検証・改善	・効果検証 効果が出ない場合は、対策内容を改善、見直すことも必要

資料編		
	No.1	カラスにごみを荒らされないための対策の紹介
	No.4	行動経済学のナッジを使ったカラス対策
	No.21	カラス対策　ごみ容器・カラスネットなどの使用

対策Ⅲ－②　ごみ箱の設置

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路	小売店の周辺	通学路	河川敷	水路
人目に付きにくい場所	ごみステーション	集客イベント	観光地	

□ 対策の特徴

近年は、治安上の理由や、管理、コスト面から、外出時にごみ箱を見かけることが少なくなっています。しかし、場所によっては、ごみ箱を置くことによって散乱ごみの減少が期待される場合もあります。

特に大量の来場者が見込まれる集客イベントや観光地については、来場者数やごみの発生量見込み数を考慮のうえ、ごみ箱の効果的な配置を検討する必要があります。

□ ポイント

☑ 適切な場所にごみ箱を設置する

観光地やイベントでは、飲食関係のごみが多く発生します。ごみ箱を設置する際は、飲食スペースの近くに配置する、のぼりを立てて遠くからでも分かりやすくするといった工夫が考えらえます。

☑ 適切な頻度で回収する

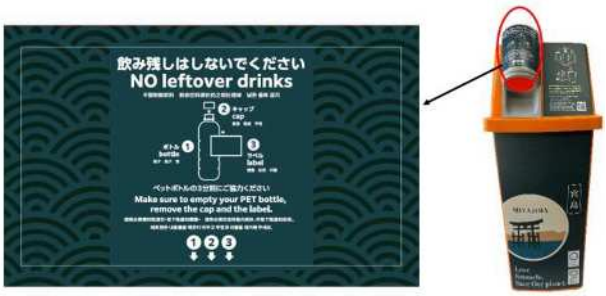
ごみ箱からごみが溢れた状態になると、その周囲にごみが置き捨てられる状況となります。定期的に巡回する等適切な頻度で回収を行う必要があります。例えば、ごみの蓄積状況を知ることができるIoTごみ箱※の活用も考えられます。

※IoTごみ箱とは、IoT技術を活用したごみ箱で、センサー技術を使っててごみの蓄積状況をリアルタイムで監視できる。

▲ IoTごみ箱

☑ 正しい捨て方を分かりやすく示す

ごみの分別について、利用者に分かりやすく伝える工夫をします。例えば、観光地では外国人観光客の利用も想定し、捨て方をイラストや多言語によって示したラベルを貼っておく等の対策が考えられます。



▲ 捨て方の記載例
（リサイクルボックスの投入口に図示）

☑ ごみ箱の貸し出しを行う

（イベントで設置するごみ箱は、一時的な使用になるため、自治体が無料で貸し出しを行うことも有効です。）

▲レンタルごみ箱・のぼり旗

Column

新機能リサイクルボックス

自動販売機の横に設置されているリサイクルボックスが溢れると、その場所にごみが置き捨てられるようになり、ごみが散乱する原因になることがあります。

清涼飲料業界が開発した「新機能リサイクルボックス」は、投入口を見えにくい角度・高さに設計し、カップ等の入らない口径にすることで、異物の混入やごみの散乱防止につながる工夫がされています。

出典　https://www.jama-vm.com/pages/54/

▲新機能リサイクルボックス

□ 対策フロー

設置場所の確認	・ごみ箱の設置場所を確認 例　人の出入りが多い場所、散乱ごみが多い場所　等
↓	
関係部署との調整	・設置場所の管理者等との調整 例　・道路管理者　・土地所有者 ・地元自治会　・イベント主催者　等
↓	
ごみ箱の設置	・設置後は適切なタイミングでごみを回収
↓	
効果の確認・検証・改善	・効果検証 効果が出ない場合は、対策内容を改善、見直すことも必要

資料編		
	No.3	ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」
	No.7	「思わず参加したくなるような投票式の吸い殻入れ」の実証実験
	No.17	イベント用ごみ箱等の無料貸し出し
	No.18	イベントごみの減量マニュアル
	No.19	自販機横”新機能リサイクルボックス”の新たな形での導入促進に向けた実証事業
	No.20	海へのプラスチックごみ流出抑制に向けたテイクアウトカップ回収等のモデル事業

アプローチⅣ　ごみを拾う

対策Ⅳ－①　清掃活動

散乱ごみの発生場面

交通量の多い道路	小売店の周辺	通学路	河川敷	水路
人目に付きにくい場所	ごみステーション	集客イベント	観光地	

□ 対策の特徴

清掃活動は、公共の場所や自然環境をきれいに保つことによる地域美観の向上だけでなく、共同で活動することによって、地域住民等の連帯感や協力意識が高まることも期待される、地域社会全体の環境意識向上や環境保護に貢献する重要な取り組みといえます。

□ ポイント

☑ 学生や小売店、地域住民と共同で実施する

地域に密着した場所での清掃活動は、「こんな所にごみがある」という気づきにも繋がります。地域の各主体が共同で活動することで、環境意識の醸成も期待できます。

☑ 清掃活動を組み込んだイベントの開催

イベントのプログラムにあらかじめ清掃活動を組み込んでおくことも有効です。その地域を訪れた人が、商店街やボランティア団体と連携し、ごみ拾いや清掃活動を行うことで、散乱ごみを自分事として捉えることにもつながります。

▲イベント後の清掃活動

☑ 参加しやすい清掃イベントの開催

ただの清掃活動ではなく、回収したごみ量をチーム制で競わせる等のゲーム性を持たせた楽しめる内容にすることが考えられます。
これにより、普段清掃に参加したことがない人など幅広い層の参加を見込むことができます。

▲清掃イベント＊

＊令和6年度福岡県：みんなでスポGOMI！
福岡県ビーチクリーニング大会（行橋会場）

□ 対策フロー

散乱ごみ、集客イベントの確認	・清掃する場所を確認 例　イベント概要、ごみの処理方法、安全が確保できるか等
↓	
関係部署との調整	・実施場所の管理者等との調整（必要があれば許認可申請） 例　・河川管理者　・道路管理者 ・土地所有者　・河川愛護団体 ・地元自治会　・地元の水利組合 ・観光協会　・イベント主催者　等
↓	
開催の決定	・開催案内を行う 夏場の開催では暑い時間帯は避ける
↓	
機材の準備	・必要な機材を準備する 例　ごみ袋、トング、軍手　等
↓	
対策実施	・以下に留意して清掃活動を実施 留意事項の例　当日の職員の配置、雨天時の対応、緊急時の連絡体制の確保、ごみの廃棄方法　等
↓	
効果の確認・検証・改善	・効果検証 効果が出ない場合は、対策内容を改善、見直すことも必要

資料編

No.2	若手職員による国道１号谷稲葉ＩＣ ゴミのポイ捨て対策について
No.3	ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」
No.5	茨城県内における不法投棄対策
No.6	プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言
No.8	IoTトングでひろえば街が好きになる運動with Rethink PROJECT
No.9	アダプト・プログラムの事例紹介
No.13	浅草地区における持続可能な観光地づくりについて
No.15	河川ごみ等回収促進事業（おかやま河川ごみ一掃大作戦）

その他の対策　環境教育・啓発

□ 対策の特徴

　ポイ捨てによるごみの散乱をなくすためには、一人一人の環境美化意識とマナーの向上が大切です。
　特に、将来を担う学生に向けては、環境教育を通して、地域の美化意識を醸成させる必要があります。

□ ポイント

☑　学年や立場に応じた教育資材の活用

環境問題に対する知識や受け止め方は年齢によって異なります。そのため、小学生、中学生、高校生等の立場にあった教育をすることが重要です。

▲小中学生向けの資料

▲高校生向けの資料

＊出典　「環境省 平成29年度漂着ごみ対策総合検討業務」（環境省）
https://www.env.go.jp/water/marirne_litter/post_41.html

▲一般の方、地方自治体向けの資料

＊出典　「【ハンドブック】ごみ拾いから始める海洋プラスチックごみ問題の解決：一般の方、地方自治体向け」（環境省）　https://plastics-smart.env.go.jp/education/107/

Column

福岡県の啓発資材

福岡県では、各団体等の環境教育・啓発にご使用いただける、海岸漂着物に関する啓発動画を公開しています。

また、海ごみの現状や影響をかわいらしいイラストとともに紹介するパンフレットや、プラスチックごみの状況についてより詳しく説明を加えたパンフレットなども制作しています。

【啓発動画】

○密着！漂着！海のごみに突撃インタビュー！（10 分 16 秒）

「海のごみがインタビューに答える」という構成で、途中で出題されるクイズに答えながら海ごみについて学べる内容となっています。年齢の若い方にも興味を持ってもらえる動画です。

▲動画掲載場所
YouTubeが開きます

○未来の海を守るため、海岸漂着ごみクリーンアップ大作戦を実行！（18分11秒）

県主催の海岸清掃や漂着ごみアート制作の風景を中心に、イベント参加者や普段から清掃ボランティアに取り組んでいる方などの声を紹介し、福岡の海の現状を伝える内容となっています。

▲動画掲載場所
YouTubeが開きます

※動画は福岡県庁動画資料館（県公式YouTubeチャンネル）で公開しています。

【啓発パンフレット】

これは海の生き物？
私たちの出したごみ？

プラスチックごみの
海になる日まで。

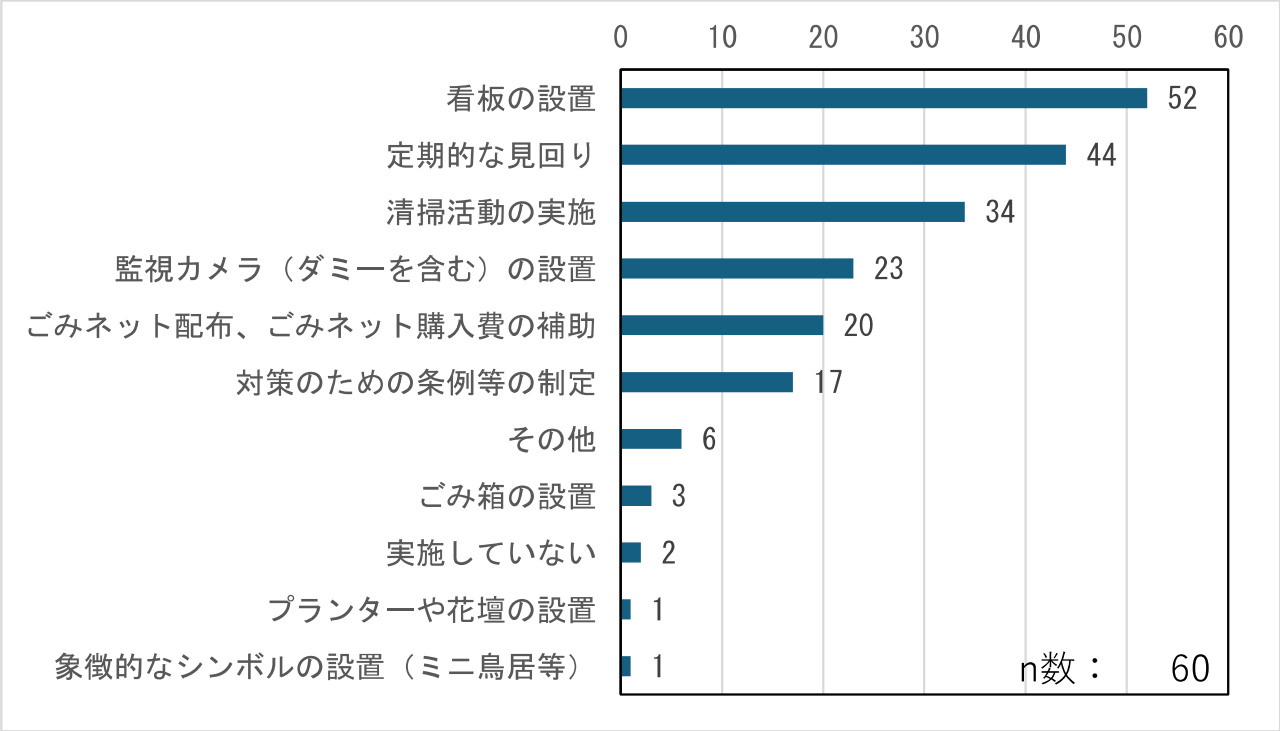
▲パンフレット
掲載場所

※パンフレットのデータは福岡県HPで公開しています。

4 福岡県内の散乱ごみ対策状況

福岡県内60市町村に対し「散乱ごみに関するアンケート調査（令和６年度実施）」を行いました。アンケートの結果、県内市町村が多く取り組んでいる取組は以下の５つでした

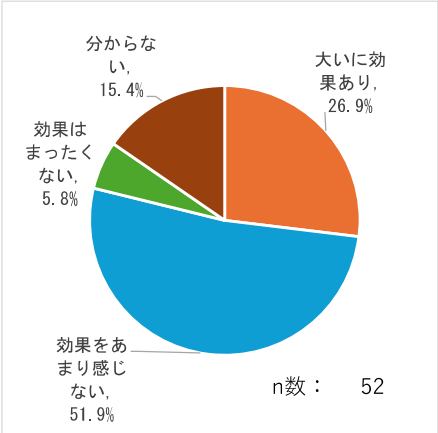
〇対策１　看板の設置
〇対策２　定期的な見回り
〇対策３　清掃活動の実施
〇対策４　監視カメラ（ダミーを含む）の設置
〇対策５　ごみネット配布、ごみネット購入費の補助



対策１　看板の設置

散乱ごみ対策のうち、看板の設置を行っている県内自治体数は52で、そのうち、14自治体（設置自治体の約27%）が、対策について、「大いに効果あり」と評価しています。

対策の実施場所は、「道路及びその周辺」、「ごみ集積所・ごみステーション」、「河川敷・水路」が多くなっています。



取組例

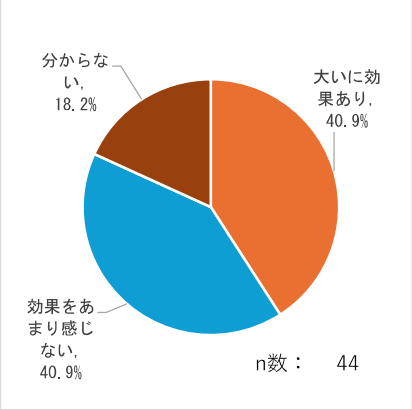
・苦情の内容に応じて、ごみステーション毎に手作りの看板を設置している。（北九州市）
・複数（11種類）の看板デザインを市HPに掲載し、希望者に啓発看板を貸与。（大牟田市）
・不法投棄の発生状況に応じた看板を作成している。（大野城市）
・車への対策として、反射材を用いた看板としている。また、警察との連携をアピールするため、管轄の警察署名を入れている。（遠賀町）

▲大牟田市の貸与看板の一例
（参考：https://www.city.omuta.lg.jp/kiji0036740/index.html）

対策２　定期的な見回り

散乱ごみ対策のうち、定期的な見回りを行っている県内自治体数は44で、そのうち、18自治体（実施自治体の約41%）が、対策について、「大いに効果あり」と評価しています。

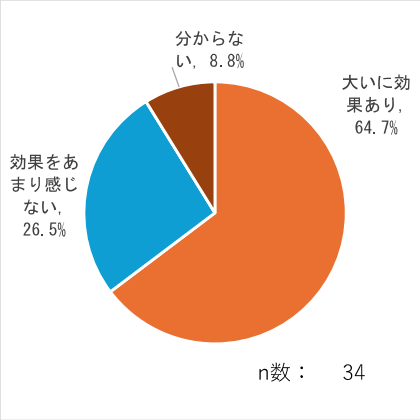
対策の実施場所は、「道路及びその周辺」、「河川敷・水路」が多くなっています。



対策３　清掃活動の実施

散乱ごみ対策のうち、清掃活動を行っている県内自治体数は34で、そのうち、22自治体（実施自治体の約65%）が、対策について、「大いに効果あり」と評価しています。

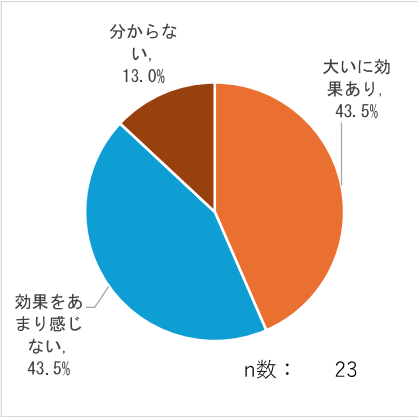
対策の実施場所は、「道路及びその周辺」、「河川敷・水路」、「公園・レクリエーション施設」が多くなっています。



対策４　監視カメラ（ダミーを含む）の設置

散乱ごみ対策のうち、監視カメラ（ダミーを含む）の設置を行っている県内自治体数は23で、そのうち、10自治体（設置自治体の約44%）が、対策について、「大いに効果あり」と評価しています。

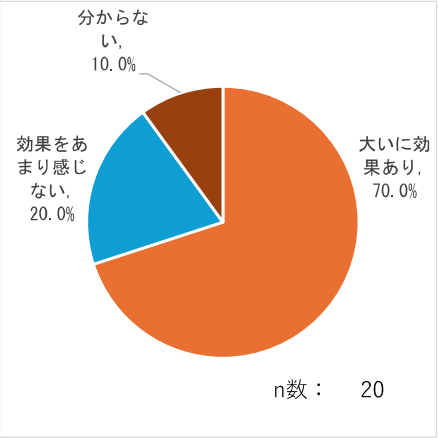
対策の実施場所は、「道路及びその周辺」、「ごみ集積所・ごみステーション」が多くなっています。



対策５　ごみネットの配布・ごみネット購入費の補助

散乱ごみ対策のうち、ごみネット配布・ごみネット購入費の補助を行っている県内自治体数は20で、そのうち、14自治体（実施自治体の約70%）が、対策について、「大いに効果あり」と評価しています。

対策の実施場所のほとんどは、「ごみ集積所・ごみステーション」です。



福岡県散乱ごみ対策事例集　資料編

資料集について

自治体等で実際に取り組まれている散乱ごみ対策の個別事例を紹介します。各事例については、事例集本編における各種アプローチ手段、及び考えられる対策メニューでカテゴリー分けしています。

カテゴリー

アプローチ：ポイ捨てさせない　不法投棄させない　散乱させない　ごみを拾う

取組内容：看板　プランター　除草　ごみ袋　監視強化　害獣対策　ごみ箱　清掃活動

■個票リスト

No.	内　容	取組内容								頁
		看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動	
1	カラスにごみを荒らされないための対策の紹介（愛知県名古屋市）						○			P3
2	若手職員による国道１号谷稲葉ＩＣゴミのポイ捨て対策について（静岡国道事務所など）	○		○		○			○	P4
3	ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」（京都府亀岡市）	○				○		○	○	P5
4	行動経済学のナッジを使ったカラス対策（株式会社 CrowLab）	○					○			P6
5	茨城県内における不法投棄対策（茨城県）					○			○	P7
6	プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言（大阪府枚方市）	○							○	P8
7	「思わず参加したくなるような投票式の吸い殻入れ」の実証実験（岡山後楽館高等学校、岡山市）							○		P9
8	IoT トングでひろえば街が好きになる運動 with Rethink PROJECT（奈良県生駒市）								○	P10

No.	内 容	取組内容								頁
		看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動	
9	アダプト・プログラムの事例紹介 （公益社団法人食品容器環境美化協会）								○	P11
10	廃棄物の不適正処理事案（不法投棄、不適正残土等）広域連携ホットライン協定の締結 （茨城県（石岡市、他３市町）					○				P12
11	まちかど花壇 （神奈川県横浜市鶴見区）		○							P13
12	街角花いっぱいボランティアグループ （千葉県富岡市）		○							P14
13	浅草地区における持続可能な観光地づくりについて （東京都台東区）								○	P15
14	おねがい 用水や川に刈草を流さないで！ （富山県）			○						P16
15	河川ごみ等回収促進事業 （おかやま河川ごみ一掃大作戦） （岡山県）			○					○	P17
16	観光客専用ごみ袋 （北海道羅臼町）				○					P18
17	イベント用ごみ箱等の無料貸し出し （埼玉県川口市）							○		P19
18	イベントごみ減量マニュアル （千葉県松戸市）							○		P20
19	自販機横"新機能リサイクルボックス"の新たな形での導入促進に向けた実証事業 （広島県など）							○		P21
20	海へのプラスチックごみ流出抑制に向けたテイクアウトカップ回収等のモデル事業 （大阪府など）							○		P22
21	カラス対策 ごみ容器・カラスネットなどの使用 （東京都杉並区）						○			P23

※各事例に記載している実施年度は 2024 年度時点の情報になります。

アプローチ　ポイ捨てさせない　不法投棄させない　**散乱させない**　ごみを拾う

取組内容　看板　プランター　除草　ごみ袋　監視強化　**害獣対策**　ごみ箱　清掃活動

No. 1	**カラスにごみを荒らされないための対策の紹介**
関係自治体等	愛知県　名古屋市
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

収集袋で排出されたごみを突いて中身を散乱させてしまうカラスについて、その生態や被害防止の方法、家庭で取り組むことのできるカラス対策のアイデアなど HP 上で広く紹介している。生ごみの減量や堆肥化、正しい防鳥ネットの使い方については、更に詳しく解説したページのリンクも掲載。カラスによるごみ散乱対策チラシもダウンロード可能であり、日本語版のほか 7 言語でのチラシも掲載するなど、幅広い属性に向けた啓発にも取り組んでいる。

●実施内容、取組の結果など

カラスにごみを荒らされないための対策などについて、以下の内容等を HP 上で紹介。

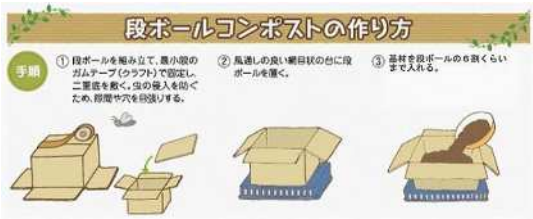
◇カラスの生態について

近年、都会でハシブトガラスが増加している。主な要因として、高栄養価の生ごみの摂取による繁殖率の高まりがあり、雛の数の増加に繋がっている。

◇カラスによる被害を防止方法について

①生ごみを減らす、②生ごみを隠して排出する。③防鳥ネットを使用する、④ごみは収集日当日の朝に出す　といった、カラスにごみ袋の中身を散乱される被害を防止するための手立てを紹介。どのようなごみの出し方をすると被害を受けやすいかが分かりやすくまとめられている。

生ごみの減量と防鳥ネットについては詳しく解説したページへリンクで飛べるようになっており、段ボールコンポストの作り方や堆肥づくり講座の案内、助成制度のほか、防鳥ネットに適した網目のサイズやネットの大きさ、効果的な防鳥ネットのかけ方などの情報に簡単にアクセスできるようになっている。



▲家庭における生ごみの堆肥化方法の紹介

▲防鳥ネットの正しい使用方法の紹介

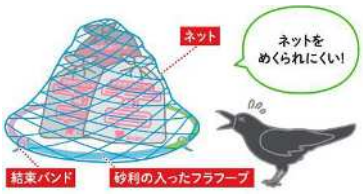
◇家庭で取り組めるカラス対策について

家庭で取り組めるカラスによるごみ散乱対策のアイデアを市民から募集し HP 上に掲載。アイデアは後述のごみ散乱対策チラシにも掲載している。

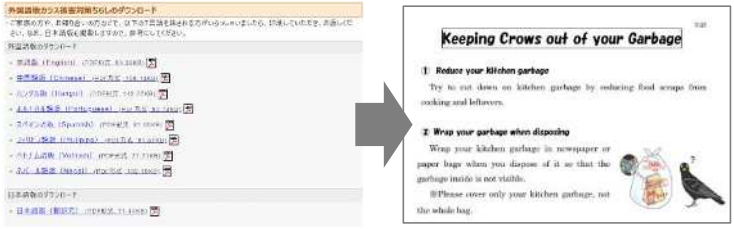
◇対策用チラシ

HP では各種チラシがダウンロード可能。カラスによるごみ散乱対策チラシでは、防鳥ネットの活用や生ごみが見えないような捨て方、ごみ出しのタイミングなどについて啓発している。

また、カラス被害対策チラシについては、日本語版の他に 7 言語での外国語版も掲載している。



▲家庭で取り組めるカラス対策の紹介



▲外国語版カラス被害対策ちらしの紹介

●その他

出典：名古屋市 HP（https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/5-6-28-0-0-0-0-0-0-0.html）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 2	**若手職員による国道１号谷稲葉ＩＣ ゴミのポイ捨て対策**
関係自治体等	静岡国道事務所　など
実施年度等	2018 年度～

【 取組の概要 】

静岡県藤枝市の国道 1 号谷稲葉 IC における長年にわたるポイ捨て問題に対応するため、静岡国道事務所の若手職員がプロジェクトチームを結成。ごみの種類や捨てられる場所を調査し、啓発看板や防草マットの設置などを実施した。2019 年 1 月には藤枝警察署・藤枝市と合同パトロールを開始し、さまざまな対策を展開。取り組みの詳細と成果を報告しているほか、ごみを捨てられた箇所の傾向を分析し、「谷稲葉 IC ゴミのポイ捨て対策」を策定している。

●実施内容、取組の結果など

谷稲葉 IC は藤沢市の玄関口に位置しており、近隣市街地へのアクセスもよいインターチェンジである。一方、同 IC はごみのポイ捨ても多いポイントであり、景観形成の観点などから対策の必要があった。

静岡国道事務所では、2019 年 1 月の合同パトロール及び合同啓発活動をスタートとして、静岡国道事務所の採用 1 ～ 4 年目の若手職員によるプロジェクトチームを結成し、谷稲葉ＩＣのごみのポイ捨て状況調査。ごみを捨てられた箇所の傾向を分析の上、「谷稲葉ＩＣのゴミのポイ捨て対策」を策定。藤枝警察署・藤枝市と連携の上、対策を実施した。現状の把握に係る調査や対策検討、関係者と連携した実施などを効果的かつ効率的に進めている。

«2018 年度の取り組みの流れ»

時期	内容	
2018.9	若手プロジェクトチーム発足	
	第 1 回打合せ	試行として乱立する既存の啓発看板の撤去、除草作業の実施を決定
2018.9～10	第 1 回調査	対策試行前のごみの投棄箇所およびごみの発生源及び種類を調査
2018.10	第 2 回調査	既存の啓発看板の撤去および除草作業の実施後、ごみの投棄箇所およびごみの発生源及び種類を調査
2018.11	第 2 回打合せ	第 1 回及び第 2 回調査の結果を踏まえて、改めて傾向と課題を抽出
	傾向と課題を踏まえて、以下の対策について内容を検討。 ○ごみの投棄傾向を踏まえた対策　○除草効果を維持する対策 ○ボックス内及び前後区間の景観向上に向けた対策　○ドライバー視点からの対策	
2018.11	三者会議	静岡国道事務所、藤枝警察署、藤枝市の三者で会議。策定した「谷稲葉 IC ゴミのポイ捨て対策」を提示
2019.1	合同パトロール及び 合同啓発活動実施	対策内容 ○看板の設置　○合同パトロール　○合同啓発活動　○ハード的対策の実施　等
2019.1～2	第 3 回調査	1 月対策実施後のポイ捨て状況を調査

第 1 回調査

第 2 回調査

合同パトロール

静岡国道事務所ＨＰへの掲載

2018 年度の取り組みでは、第 1 回調査時から第 3 回調査時でごみ総数は約 6 割減少と効果が見られた。一方、目標とするごみ“ 0 ”を目指し、継続的に取り組みを実施する必要があるとして、続く 2019 年度や 2022 年度にも対策を実施している。なお、2022 年の啓発活動等では、静岡国道事務所とボランティア・サポート・プログラム協定を締結している静岡県トラック協会中部支部も取り組みに加わっている。

●その他

出典：中部地方整備局　静岡国道事務所（https://www.cbr.mlit.go.jp/shizukoku/sonota/yainabaIC.html）
若手職員による国道 1 号谷稲葉 IC ゴミのポイ捨て対策について
（https://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/2019kannai/pdf/re07.pdf）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 3	**ソフトバンク株式会社と連携した「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」**
関係自治体等	京都府　亀岡市
実施年度等	2022 年度～2023 年度

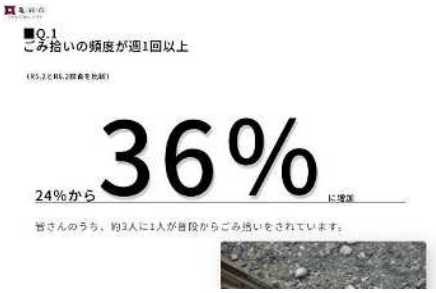
【 取組の概要 】

亀岡市では、ソフトバンク株式会社と「環境および教育事業連携に関する協定」を締結しており、その中での共同研究として、ポイ捨てしにくい環境構築を目的とした「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」に取り組み、LINE サービスを通じ「ごみ投稿サービス」を運用。2022 年 4 月から 2024 年 3 月までの 2 年間で約 50,000 個（投稿数約 20,000 件）のポイ捨てごみデータを収集し、特設ページにて投稿データや個人投稿数などを公開している。投稿が多いポイントにおいては、不法投棄監視パトロールの重点実施や啓発看板・IoT ごみ箱「Smago（スマゴ）」の設置を実施するなど、データを効果的な対策に活用している。

●実施内容、取組の結果など

亀岡市とソフトバンク株式会社が締結している「環境および教育事業連携に関する協定」の中で、共同研究として、ポイ捨てしにくい環境構築を目的とした「ポイ捨てごみゼロプロジェクト」に取り組み、LINE サービスを通じ「ごみ投稿サービス」を運用。

2022 年 4 月から 2024 年 3 月までの 2 年間で約 50,000 個（投稿数約 20,000 件）のポイ捨てごみデータを収集し、特設ページにて投稿データや個人投稿数、併せて実施したごみ拾いに関する市民調査の結果など、市のポイ捨てごみの現状について情報を公開しているほか、投稿データについては、後述するような不法投棄監視パトロールの重点実施や啓発看板の設置、IoT ごみ箱「Smago（スマゴ）」の設置におけるポイントの設定などに活用している。



▲特設ページでの調査結果の公開

◇重点パトロール、プロジェクト専用啓発看板の設置

投稿が多いポイントには不法投棄監視パトロールの重点実施、啓発看板の設置など対策を実施。

◇IoT ごみ箱「Smago（スマゴ）」の設置

投稿データを分析した結果、比較的投稿数が多く、人通りが多い JR 亀岡駅の北口と南口に IoT ごみ箱「Smago」を設置。エコウォークなど清掃活動で回収したポイ捨てごみの処理に活用するよう市民に呼び掛けている。「Smago」の設置は、亀岡市が西日本で初。

▲各種対策の様子

〇IoT ごみ箱「Smago（スマゴ）」の機能

（1）ごみが一定量貯まると、約 5 分の 1 に自動で圧縮。

（2）リアルタイムにごみの量を管理・分析。

（3）ソーラーパネルの搭載により、電源が不要で、環境に負担をかけない。

なお、市は 2024 年 4 月に、市の公式 LINE から報告ができるかたちにごみ投稿をリニューアルしている。市の公式 LINE アカウントを友達追加した上で、簡単な操作で見つけたごみの種類や場所などを報告できるサービスになっており、市は利用方法を周知するなど市民への協力を呼び掛けている。

▲IoT ごみ箱「Smago」（亀岡駅北口・南口）

●その他

出典：亀岡市 HP（https://www.city.kameoka.kyoto.jp/site/kankyou/32708.html）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 4	**行動経済学のナッジを使ったカラス対策**
関係自治体等	株式会社 CrowLab （クロウラボ）
実施年度等	―

【 取組の概要 】

カラスによるごみ荒らしが起こる原因は、ネットの掛け方が悪いなど、ごみの出し方に問題があるケースが多いことから、行動経済学において注目されているナッジ理論を活用し、カラスによるごみ嵐を防ぐためにごみの出し方の改善を促すPOP を作成。

東京都足立区にて実証実験を実施しており、ナッジの理論を使った POP をごみ集積所に掲示することにより、ごみを出す方が、カラスがごみを荒らしていることを意識する、ごみの管理をしている人が居ることを意識する等により、住民のごみの出し方が改善されたという結果が得られた。

●実施内容

行動経済学において注目されているナッジ理論を活用し、ナッジの専門家と協力してカラスによるごみ荒らしを防ぐためにごみの出し方の改善を促す POP を作成、東京都足立区における実証実験にて、ごみ集積所に掲示した。

POP は、ごみの出し方を人の側に指南する内容で、習慣化している日々のごみ出しを言う行為でいかに注意を引くかに重きを置いて作成。オレンジや青色を使用した目立つ配色とし、人が思わず意識を向ける、目を備えたキャラクターやカラスを配置するなど、認知心理学の知見も活用している。

実証実験では、ごみを出す方が、カラスがごみを荒らしていることを意識する、ごみの管理をしている人が居ることを意識すること等により、住民のごみの出し方が改善されたという結果が得られた。

株式会社 CrowLab では、利用条件を守ることを条件に、希望者へ作成した POP データを配布している。

▲POP の例

●その他

出典： 株式会社 CrowLab（クロウラボ）HP（https://www.crowlab.co.jp/nudge/index.html）
株式会社 CrowLab では、カラス研究で実績のある宇都宮大学と連携し、カラス被害対策関連の事業を行っている。

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 5	**茨城県内の不法投棄件数が半減**
関係自治体等	茨城県
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

茨城県では、不法投棄対策として、不法投棄の早期発見・通報体制の確立、事案発生初期からの監視・指導体制充実強化に力点をおいて取り組んでいる。

また、年々悪質・巧妙化している不法投棄事案に対しては、「捨て得は許さない」という方針で、不法投棄行為者、搬入業者、排出事業者、土地提供者に対応している。

●実施内容

茨城県内の不法投棄の新規発生は、2020 年度まで 100 件台で推移しており、中でも、トラックで公道や農地に廃棄物を散発的に投げ捨てる「ゲリラ的不法投棄」が多かった。

県や市町村は、2021 年度から不法投棄の監視を強化。県警 OB などで組織する「不法投棄等機動調査員」の採用、画像が投稿できる通報アプリ導入や情報提供者への報奨金制度の運用の開始、約 450 人体制のボランティアによる監視を実施。

不法投棄の新規発生は、2021 年度から大幅に減少した。

▲不法投棄防止強調月間

«具体的な取組内容»

◇**啓発チラシの作成**……廃棄物の不法投棄、残土の無許可埋立てについての啓発

◇**監視・指導体制の充実強化**

● 不法投棄対策室の設置	本庁廃棄物規制課内に県警からの派遣警視を室長として 30 人体制で設置（2024 年度）
● 不法投棄監視指導班の設置	県内 5 つの県民センター等に、不法投棄監視班を設置
● 産廃に係る立入検査権権限の市町村への付与	迅速な現地調査等を行うため、県内 43 市町村の 324 名に併任発令 廃棄物処理法に基づく立入検査などの権限を付与
● 専門チームによる悪質事案への対応	不法投棄等機動調査員 10 人を雇用し、監視・追跡パトロール活動を強化 悪質事案発生時は当該調査員で「専門チーム」を編成
● 警備会社への不法投棄現場の監視委託	警備会社へ休日夜間の不法投棄現場の監視を委託
● ボランティア撤去事業	今後撤去される見込みが少ない事案などについて、一般社団法人茨城県産業資源循環協会と連携・協力して撤去事業を実施

◇**発見・通報体制の充実強化**

● ボランティア不法投棄監視員の委嘱	約 420 名体制のボランティアによる全県的な監視を実施
● 不法投棄監視協定の締結	監視・通報体制構築のため、早朝・夜間の時間帯又は山間部などで活動している業界団体等と監視協定を締結
● 不法投棄 110 番（フリーダイヤル）による情報収集	不法投棄の通報先としてフリーダイヤルを設定
● 不法投棄防止強調月間の実施	県・警察・市町村・業界等が合同して、各種パトロールなどを実施
● 不法投棄通報アプリによる情報収集	茨城県では、ごみ拾いによる社会貢献活動を SNS で共有するために開発されたアプリ「ピリカ」を茨城県用にカスタマイズ、不法投棄通報アプリとして運用
● 有力情報に対する報奨金制度の運用	産業廃棄物の不法投棄等や残土の不適正処理事案の早期発見に資するため、「不法投棄等情報提供報奨金制度」を運用

●その他

出典： 茨城県 HP
（https://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/haitai/fuho/1fuhotokitaisaku/fuhoutokitaisaku.html）

アプローチ　**ポイ捨てさせない**　不法投棄させない　散乱させない　**ごみを拾う**

取組内容　**看板**　プランター　除草　ごみ袋　監視強化　害獣対策　ごみ箱　**清掃活動**

No. 6	**プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言**
関係自治体等	大阪府　枚方市
実施年度等	2019 年度～現行

【 取組の概要 】

枚方市では、市民・市民団体、事業者、行政が連携・協力し、プラスチックごみ等ポイ捨て防止の啓発活動や使い捨てプラスチックの削減に向けた 4R（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを推進するため、2019 年 6 月 1 日にプラごみダイエット～ポイ捨てゼロを宣言。

SDGs のゴール 14 に「海の豊かさを守ろう」が設定され、国や大阪府・大阪市などをはじめ、様々な団体において、プラスチックごみの削減に向けた取り組みが進められていることから、枚方市としても市民等と連携したさらなる取り組みの充実を図っている。

●実施内容

枚方市では、プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言をとおして、市民・市民団体・事業者・行政が連携・協力し、プラスチックごみ等ポイ捨て防止の啓発活動や使い捨てプラスチックの削減に向けた４R（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを推進することとしている。これまでの取組内容は以下のとおり。

◇「プラごみダイエット行動宣言」の参加者を募集

- 日々の行動の積み重ねでプラスチックごみを減らすことを目的として、毎日の暮らしの中でプラスチックごみを減らす行動を宣言する「プラごみダイエット行動宣言」への参加者を募集（2021 年 1 月～2024 年 3 月末）。
- 参加人数 1 万人を目標とし、2024 年 3 月末まで参加を呼びかけた結果、のべ 10,178 人が宣言に参加し、目標を達成。
- 「ひらかたプラごみダイエット行動宣言」の終了を前に、これまでに実施したプラスチックごみ削減・ポイ捨てゼロの啓発活動に関するアンケート調査。

▲プラごみダイエット
～ポイ捨てゼロ宣言

◇「プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言」周知ポスターを作成

- 「ひらかたプラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言」を広く周知するとともに、海洋プラスチックごみ問題に関して啓発を行うため、大阪府立枚方なぎさ高校美術部の高校生の協力のもと、啓発ポスターを作成。

◇プラごみダイエット生活のアイデア募集

- NPO 法人ひらかた環境ネットワーク会議と連携して、2020 年 7 月から 9 月に「プラごみダイエット生活アイデア募集」を開催。
  応募総数 67 人（子ども 39 人、大人 28 人）
- 「【体験談＆実例募集】プラごみダイエット生活第 2 弾」として、前年に続いて 2021 年 7 月から 9 月にかけてアイデアを募集。
  応募総数 55 人（子ども 30 人、大人 25 人）

▲(左)「プラごみダイエット行動計画」参加者募集
（右）「プラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言」啓発ポスター

●その他

出典：枚方市 HP（https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000024242.html）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	**散乱させない**	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	**ごみ箱**	清掃活動

No. 7	**「思わず参加したくなるような投票式の吸い殻入れ」の実証実験**
関係自治体等	岡山後楽館高等学校、岡山市
実施年度等	2023 年度

【 取組の概要 】

たばこの吸い殻のポイ捨てをなくしたいと考えた岡山市立高校の学生が、学生自ら考え実践する総合学習の活動の中で、「投票式の吸い殻入れ」の設置を提案。その取り組みの趣旨に賛同した民間企業と岡山市の協力により「投票式の吸い殻入れ」を岡山市市街地中心部に設置し、設置前・設置後について吸い殻入れ周辺のポイ捨て改善状況の効果検証を行ったもの。

●実施内容

岡山市立岡山後楽館高等学校（岡山市北区南方）の学生が、学生が自ら考え実践する総合学習の活動として、「投票式の吸い殻入れ」設置前（2023 年 7 月）と設置後（同年 8 月）に、吸い殻入れ周辺の吸い殻のポイ捨て状況を調査し、「投票式の吸い殻入れ」によるポイ捨て状況の変化を検証した。

「投票式の吸い殻入れ」とは、灰皿に二者択一の設問を記載し、ナッジ的なアプローチ（行動経済学）により、つい使いたくなる仕組みを取り入れたもの。吸い殻を自身が選んだ設問箇所に捨てることができる。

▲投票式の吸い殻入れ

≪実証実験の概要≫

◇事前調査

西川緑道公園の時計台のある東屋（北区富田町）の半径 200m の範囲での吸い殻のポイ捨て状況を調査。

◇事後調査

西川緑道公園の時計台のある東屋（北区富田町）に投票式の吸い殻入れを 1 か月間にわたり設置し、半径 200m の範囲での吸い殻のポイ捨て状況を調査。投票の設問は調査期間の前後半で変更（下記参照）。

① 貰えるとしたらどっちを選ぶ？　A: 10 万円の桃 1 個　B: 1 万円のマスカット 10 房

② 留学生を一日観光スポットに連れていくならどっちを選ぶ？　A: 倉敷美観地区　B: 岡山後楽園

≪調査結果≫

周辺に落ちていた吸い殻の数				
調査実施日	8/9（水曜日）	8/16（水曜日）	8/24（木曜日）	8/31（木曜日）
吸い殻本数	43	26	35	（201）

▲調査結果（8/31 のみ調査範囲を拡大）

- 調査実施前は、既存の灰皿周辺に吸い殻がたくさん落ちており、灰皿が有効活用されていないように見受けられたが、投票型灰皿の設置後は利用者の協力により、灰皿周辺に落ちている吸い殻の数は設置前の 9 割以上減少。設置場所から半径 20m 以上離れるとポイ捨ての状況は設置前と比べてあまり変化が見られずといった結果であった。
- 他方では、投票型灰皿周辺に放置される吸い殻以外のごみ（缶・ペットボトル・お菓子の袋等）が増加。定期的に清掃活動を行っていると受け取られ、安易にごみを放置しているのではないかということが推察された。

●その他

出典：岡山市 HP（https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000057006.html）

実証実験の実施に当たっては、株式会社コソドが投票型灰皿の提供やアドバイスなどで協力

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	**ごみを拾う**

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	**清掃活動**

No. 8	**IoT トングでひろえば街が好きになる運動 with Rethink PROJECT**
関係自治体等	奈良県　生駒市
実施年度等	2022 年度

【 取組の概要 】

奈良先端科学技術大学院大学（主催）と日本たばこ産業株式会社奈良支社（協力）が、生駒駅周辺でセンサ装着型トングを使った清掃イベント「IoT トングでひろえば街が好きになる運動 with Rethink PROJECT」を開催。

センサ装着型トングには、ポイ捨てごみの種別・位置情報収集システムが搭載されており、トングを使って拾われたごみは、すぐに Web 上の地図で種別とエリアが可視化される。

イベント当日には、ごみ拾いの後に web でごみの種類と位置を確認し、参加者同士がデータの活用方法やポイ捨ての抑制方法などについて話し合う場も設けた。

●実施内容

奈良先端科学技術大学院大学では、社会問題であるごみのポイ捨ての効果的な啓発や防止策を講じるためにはごみの種別・位置情報を網羅的に収集することが必要と考え、小型カメラを装着したトングによって拾われたごみの種別認識を位置情報とともに収集するシステムを開発。

当該システムは、センサ装着型トングを用いてごみ拾いをするだけで、自動的に情報を記録することができるもの。

Rethink PROJECT は日本たばこ産業株式会社（JT）がパートナーシップを基盤に取り組む地域社会への貢献活動の総称。「Rethink＝視点を変えて、物事を考える」をキーワードに、これまでにない視点や考え方を活かして、パートナーのみなさんと「新しい明日」をともに創りあげていくために、社会課題と向き合うプロジェクトである。

イベントには「生駒市 SDGs 推進事業補助金」が活用されている。

▲イベントの様子

▲ごみの種別・位置のデータ

●その他

出典：生駒市 HP（https://www.city.ikoma.lg.jp/sdgsaction/0000028835.html）

実施グループ：奈良先端科学技術大学院大学（申請主体）、日本たばこ産業株式会社（JT）奈良支社

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 9	**アダプト・プログラムの事例紹介**
関係自治体等	公益社団法人　食品容器環境美化協会
実施年度等	―

【 取組の概要 】

「まち美化 アダプト・プログラム」は市民と行政が協働で進める新しい「まち美化プログラム」である。
一定区画の公共の場所を養子にみたて、市民がわが子のように愛情をもって面倒をみて（＝清掃美化を行い）、行政がこれを支援するもの。市民と行政が互いの役割分担を定め、両者のパートナーシップのもとで美化を進める。
（公財）食品容器環境美化協会では、協会の HP 上にて、様々な自治体におけるアダプト・プログラムの事例を紹介している。

●実施内容

（公財）食品容器環境美化協会では、HP 上でアダプト・プログラム（市民と行政が協働で進める新しい「まち美化プログラム」）の事例を紹介している。

«アダプト・プログラムについて»

「まち美化 アダプト・プログラム」は市民と行政が協働で進める新しい「まち美化プログラム」である。

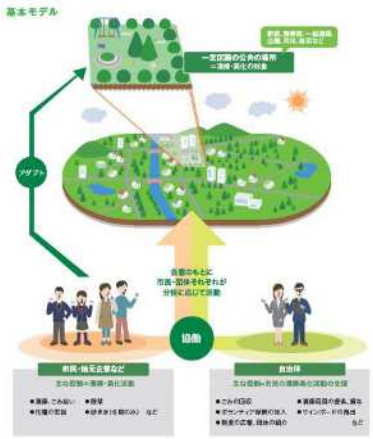
◇アダプト・プログラムの特徴

・市民と行政の協働で行われる
・継続的な活動
・地域密着型の清掃活動
・都道府県／市町村ごとに導入

◇全国のアダプト・プログラムの導入概況（2024 年 3 月末現在）

・実施自治体数　：517 自治体
・プログラム数　：約 703 プログラム
・参加団体数　：58,000 団体以上
・活動者数　：約 240 万人

福岡県内では、福岡県、福岡市、北九州市などで 21 のプログラム制度が導入されている



▲アダプト・プログラムの基本モデル

▲アダプト・プログラムの事例紹介

アダプト・プログラムの導入効果として、次のようなものがあげられる。

1．まち美化効果、ポイ捨て防止効果

拾い続けることで、散乱ごみの量自体が減るほか、きれいな場所には捨てづらいこと、アダプト活動を経験した人はポイ捨てしなくなる、などのことから、アダプト・プログラムを導入すると、散乱ごみが減少します。

2．副次的効果

・地域の連携が進む
・高齢者や障害者の活躍の場が広がる
・環境保全につながる

●その他

出典：公益社団法人　食品容器環境美化協会 HP（https://kankyobika.or.jp/adopt/adopt-program/example-report）

アプローチ	ポイ捨てさせない	**不法投棄させない**	散乱させない	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	**監視強化**	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 10	**廃棄物の不適正処理事案（不法投棄、不適正残土等）広域連携ホットライン協定の締結**
関係自治体等	茨城県（石岡市、小美玉市、かすみがうら市、茨城町）
実施年度等	2023 年度

【 取組の概要 】

茨城県の 4 市町（石岡市・小美玉市・かすみがうら市・茨城町）は、2023 年 5 月に、廃棄物の不適正処理事案（不法投棄、不適正残土等）広域連携ホットライン協定を締結。

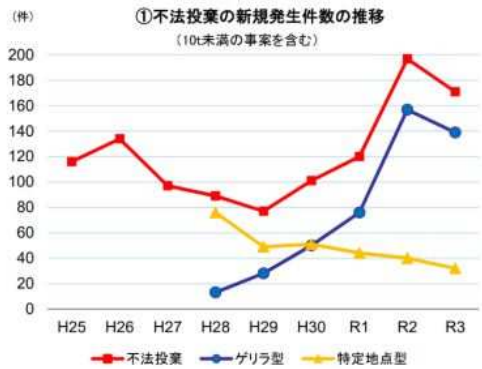
不法投棄や不適正残土など廃棄物の不適正処理事案は、近年漸増傾向にあり、県内各地域でゲリラ的に発生している。また、その手口は悪質・巧妙化し、組織的に仕組まれるなど、単一市町村での対応には限界があることや、不法投棄への対処には、初動が重要であることから、同協定によりリアルタイムな情報共有、広域的なネットワークを期待し同協定が締結された。実効的な抑止機能が期待される。

●実施内容

石岡市・小美玉市・かすみがうら市・茨城町の 4 市町において、2023 年 5 月 25 日（木）に廃棄物の不適正処理事案（不法投棄、不適正残土等）広域連携ホットライン協定を締結した。産業廃棄物などの不法投棄や無許可の土砂の埋め立ては増加傾向にあり、県内各地域でゲリラ的に発生しているほか、その手口は悪質・巧妙化し、組織的に仕組まれるなど、単一市町村での対応には限界があった。

こうした不法行為への対処には、初動が重要となるため、本協定によりリアルタイムで情報共有を図り、広域的なネットワークを駆使することで、実効的な抑止機能が期待できる。

今回、4 市町はホットラインを設け、不法行為をやらせない地域、厳しく対応していく地域であることを周知し、自治体の枠を超えた監視体制を構築していくという。



▲(左)不法投棄の新規発生件数の推移、(右)無許可埋立新規発生件数
（出典：小美玉市 HP）

●その他

出典：石岡市 HP（https://www.city.ishioka.lg.jp/kurashi_tetsuzuki/gomi_recycle/gomi/page009874.html）
その他各市町 HP でも紹介あり

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 11	**まちかど花壇**
関係自治体等	神奈川県　横浜市鶴見区
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

不法投棄防止のために花壇を整備・維持管理する団体への花の苗や種の配布を実施。

●実施内容

神奈川県横浜市鶴見区では、対象の団体・場所において申請があった場合に、花の苗や種の配布を実施している。区の HP 上にて、申請や配布、活動報告書の提出などの情報について掲載しているほか、事業が活用された花壇についても紹介している。

«概要»

◇配付品目・配付時期

花の種・苗・土・肥料を、年２回（春と秋）に配付

◇対象団体・対象場所

以下の両方を満たすもの花壇が対象

[対象団体]

年間を通じた花壇の維持管理を責任を持って行うことができる、次のいずれかの団体

（１）地域グループ（自治会町内会・子供会・老人クラブ等）
（２）職域グループ（企業・商店街・施設等）
（３）学校グループ（幼稚園・小学校・中学校・高校等）
（４）その他有志のグループ

[対象場所]

（１）公共性・公開性が高いこと
（２）土地所有者に使用許可を得ていること

◇年間スケジュール（例年）

４月中旬	申請書（年間）及び 花苗申込書（春分）の提出締切
４月下旬	区役所にて内容審査
５月上旬	審査結果通知
５月下旬～６月上旬	花苗配布（春分）
９月中旬	区役所から申請団体に 花苗申込書（秋分）を送付
９月下旬	花苗申込書（秋分）の提出締切
10 月下旬～11 月上旬	花苗配布（秋分）
３月下旬	活動報告書の提出締切

▲区民による植栽作業の様子

▲事業が活用された花壇

●その他

出典:横浜市 HP
（https://www.city.yokohama.lg.jp/tsurumi/kurashi/sumai_kurashi/recycle/machikadokadan.html）

アプローチ ▶ **ポイ捨てさせない** | 不法投棄させない | 散乱させない | ごみを拾う

取組内容 ▶ 看板 | **プランター** | 除草 | ごみ袋 | 監視強化 | 害獣対策 | ごみ箱 | 清掃活動

No. 12	**街角花いっぱいボランティアグループ**
関係自治体等	千葉県　富岡市
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

千葉県富里市の「街角花いっぱいボランティアグループ」は、市内にある 7 ケ所の花壇やプランターに季節の花を植栽し、ごみのポイ捨て防止を呼びかけているボランティア団体である。

ポイ捨てのないきれいな街をスローガンに、夏はマリーゴールドやベゴニア、冬はパンジーやビオラを植栽し管理している。

●実施内容

千葉県富里市の「街角花いっぱいボランティアグループ」では、市内にある大銀杏公園のほか 7 ケ所の花壇やプランターに季節の花を植栽し、ごみのポイ捨て防止を呼びかけているボランティア団体である。

1998 年から取組を開催。現在の構成人数は 55 名となっている。毎年 11 月に開催しているリサイクルフェアにて、活動の紹介や花苗等の販売などを実施している。

事務局は富岡市役所環境課。

長年の活動をたたえて、2016 年には富里市市民活動感謝状、2018 年には千葉県環境功労者知事感謝状の表彰を受けている。また、2023 年には、地域の花壇・ プランターへの植栽や維持管理、ごみのポイ捨て防止活動など、長年にわたり地域の環境美化に多大な貢献をしたことを受け、地域美化功労者の環境大臣賞を受賞している。

表彰 平成 30 年度千葉県環境功労者知事感謝状
街角花いっぱいボランティアグループが表彰
6 月 8 日、千葉県庁で平成 30 年度千葉県環境功労者知事感謝状表彰式が開催されました。
その席上で、市内で環境美化活動に取り組んでいる街角花いっぱいボランティアグループに感謝状が贈呈されました。
▶富里第一小学校前の花壇、その他にも、大銀杏公園など市内7か所の花壇を整備しています。

▲千葉県環境功労者知事感謝状の表彰

●その他

出典：千葉県 HP（https://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/chiikizukuri/hiroba/hiroba102.html）

アプローチ　ポイ捨てさせない　不法投棄させない　散乱させない　**ごみを拾う**

取組内容　看板　プランター　除草　ごみ袋　監視強化　害獣対策　ごみ箱　**清掃活動**

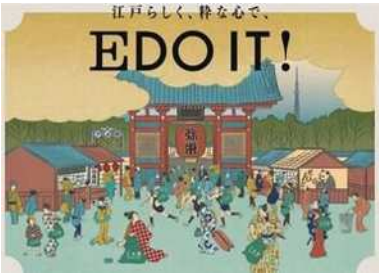
No. 13	**浅草地区における持続可能な観光地づくりについて**
関係自治体等	東京都　台東区
実施年度等	2024 年度

【 取組の概要 】

台東区では、浅草地区の地域住民や事業者と協働し、観光客の満足だけではなく、区民の生活に調和したまちづくりによる、持続可能な観光地の実現を目指している。

『EDO IT！』をスローガンに、江戸らしくストレートに「DO IT！（やろう）」という呼びかけの意味を込め、江戸の浅草地区を浮世絵タッチで表現したビジュアルとともに啓発活動を推進。

観光マナーを知ること・守ることを「良きおこない」として楽しんでいただけるような取り組みを進めている。



●実施内容

観光庁「オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業」の先駆モデル地域の自治体として、都内では唯一、台東区のみが実施する。事業内において、観光マナー啓発等の取り組みとして、観光客によるごみのポイ捨てへの対策、啓発などを実施している。混雑が顕著な浅草地区をモデルケースに実施し、その成果を踏まえ、今後は他地区への展開を検討していく想定。

◇持ち帰り用ごみ袋の配布

観光客によるごみのポイ捨てが課題となっていることから、「持ち帰り用のごみ袋」を配布することで、ポイ捨て行為に対する意識啓発を行う。 同時に、日本の観光マナーを正しく理解いただくために、「観光マナー啓発リーフレット」も配布する。対応言語は、日本語・英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語で、観光マナーについてイラスト付きでわかりやすく表記している。

▲持ち帰り用ごみ袋

◇ごみのポイ捨て禁止啓発

巡回スタッフが移動式ごみ箱をもって浅草地区を巡回しながら、観光客へのマナー啓発を行う。江戸をテーマとしたコスチュームを着て、観光客が一緒に記念撮影したくなるような楽しいマナー啓発を行う。年末年始の期間は巡回強化期間として稼働時間を延長する。

▲巡回スタッフコスチューム（予定）

◇ごみ拾いイベントの実施

楽しみながらゲーム感覚で参加できる人気の清掃イベント「清走中」※への参加を通じて、ごみのポイ捨て問題への意識を醸成しながら、浅草地区の美化を推進する。

※ごみ拾い中に SNS アプリに通知されるミッションに挑戦し、クリアに応じて付与されたポイントに基づいて景品獲得ができる参加費無料のイベント（「清走中」は株式会社 Gab の商標）。

◇ごみの組成調査・分析の実施

浅草地区内における道路等に投棄されたごみの現状を調査し、ごみの多い場所や量、組成を明確にすることで、今後の浅草地域のポイ捨てによるごみ対策の基礎資料となるよう分析を行う。

●その他

出典：台東区 HP（https://www.city.taito.lg.jp/kusei/sanka/release/press0611/26.html）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 14	おねがい 用水や川に刈草を流さないで！
関係自治体等	富山県
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

河川敷などで除草等が実施された際、刈草が川に流れてしまうと、浅瀬や川べりへ滞留してその上にごみが溜まる、水路の詰まりによる下流の水利用へ支障が出る、海岸に漂着して腐敗し悪臭を放つなど、数々の問題を生じることから、富山県ではリーフレットを作成し、草刈り時の刈草の処理について啓発している。

●実施内容

春から夏にかけて草刈を行う時期は、用水や川に刈草が流れてしまうことがあり、川では浅瀬や川べりに滞留してごみが溜まる等、川を汚す原因の一つになっている。

また、用水や川に流れた刈草は、水の流れを通じて富山湾に注ぎ込み、その一部が海岸に漂着する。海水に浸かった刈草は、腐敗し、悪臭を放つうえ、人力による回収作業が困難である。

これらのことから、富山県では、河川上流域の住民に対し、下流域や海岸の現状への理解と「用水や川にできるだけ刈草を流さない」への協力を呼び掛けている。

▲啓発用リーフレット

県では、啓発用リーフレットの作成のほか、用水や河川を刈草が流れる状況、および用水や川での草刈り（草が流れやすい刈り方、流れにくい刈り方）の動画を作成し、県ＨＰおよび Youtube 上で公開している。

▲啓発用動画（左）用水や河川を刈草が流れる状況、
（右）用水や川での草刈り（草が流れやすい刈り方、流れにくい刈り方）

●その他

出典：富山県 HP（https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyou/kj00014338.html）
「用水や川に刈草を流さないで」リーフレット（https://www.pref.toyama.jp/documents/7571/ykarikusa.pdf）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	散乱させない	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	ごみ箱	清掃活動

No. 15	河川ごみ等回収促進事業（おかやま河川ごみ一掃大作戦）
関係自治体等	岡山県
実施年度等	2023 年度～

【 取組の概要 】

岡山県では、海ごみ対策として、ごみが海に流れ出す前に河川等で回収することが有効であることから、2023 年度から新規事業として、個人や団体、企業等による河川等における清掃ボランティア活動が一層活発化するよう、市町村と連携し回収後の河川ごみ等を運搬、処分するとともに、回収を効率的に行うために県管理地内の草刈りを行うこととしている。

●実施内容

事業名：河川ごみ等回収促進事業（おかやま河川ごみ一掃大作戦）
事業内容：

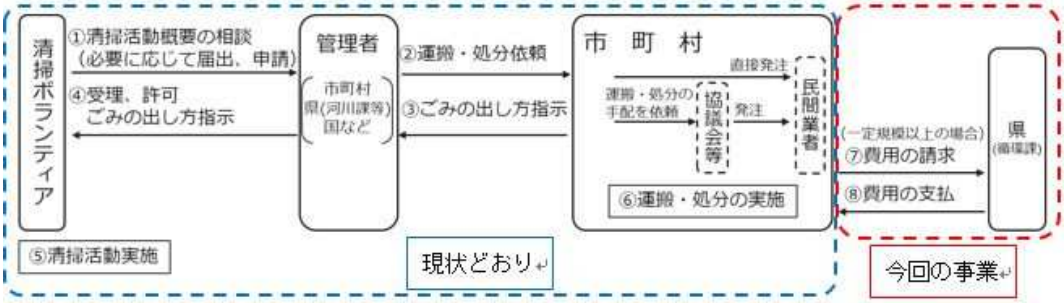
（１）河川ごみ等の運搬、処分費用の負担

2023 年度から、市町村等が河川等管理者や清掃ボランティアからの依頼に基づいて行う回収後の河川ごみ等の運搬、処分について、県管理エリアの内外にかかわらず、運搬等に要した経費を県から市町村等に全額支払う（一定規模以上※の清掃活動に限る。）。

※一定規模以上：45L ごみ袋 30 袋以上のごみ回収見込みであること

また、1 回あたりの回収量が 30 袋未満であっても、同じ団体が同一年度内に複数回の清掃ボランティア活動を行う場合、一連の活動で回収するごみの合計量が 30 袋以上となれば、すべての活動が対象とする。

従来のアダプト制度等とは異なり、この件について清掃ボランティアの方が申請などの事務手続きをする必要は無い。



▲支援フロー（一例）

（２）事前準備としての草刈り（県管理地）

（１）の対象規模以上の清掃活動が行われる場合、進入道路等部分的な草刈りを行う必要がある場合には、県が草刈りを実施する。

※ 時期によっては時間を要する場合があるので、清掃活動の 2 か月前までに要相談。

●その他

出典：岡山県 HP（https://www.pref.okayama.jp/page/858189.html）

アプローチ ▶ **ポイ捨てさせない** | 不法投棄させない | 散乱させない | ごみを拾う

取組内容 ▶ 看板 | プランター | 除草 | **ごみ袋** | 監視強化 | 害獣対策 | ごみ箱 | 清掃活動

No. 16	**観光客専用ごみ袋**
関係自治体等	北海道　羅臼町
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

世界自然遺産知床に代表される世界有数の自然に囲まれた町である羅臼町では、観光目的で町を訪れる方々のごみを受け入れるため、「観光客専用ごみ袋」を販売しており、町や知床羅臼ビジターセンターの HP などで啓発している。

●実施内容

羅臼町では観光などで訪れる方々のごみを受け入れるため「観光客専用ごみ袋」を販売している。

- ごみ袋は、羅臼町内専用。町外では使用不可
- ごみ袋は、「観光客専用ごみ袋取扱店・引取所」のステッカーが貼られた店舗等において販売
  同じ店舗にてごみの引き取りも実施
- 引き取りについては、営業時間内に店員（管理人）へ渡すこととしている
- 分別方法は「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」の２種類
- 袋の価格はそれぞれ１枚 100 円

▲観光客専用ごみ袋啓発用ポスター

▲(上)観光客専用ごみ袋取扱（引取）店マップ
(下)「観光客専用ごみ袋取扱店・引取所」ステッカー

●その他

出典：羅臼町 HP（https://www.rausu-town.jp/pages/view/8）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	**散乱させない**	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	**ごみ箱**	清掃活動

No. 17	**イベント用ごみ箱等の無料貸し出し**
関係自治体等	埼玉県　川口市
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

川口市では、市内で開催されるイベントで出るごみの分別を促進するため、ごみ分別用ごみ箱及びのぼりを無料で貸し出している。

●実施内容

川口市では、市内で開催されるイベントで出るごみの分別を促進するため、ごみ分別用ごみ箱及びのぼりを無料で貸し出している。貸し出しにあたっては、事前予約の上、貸し出しや返却の際には必要書類を提出・提示する必要がある。

«貸し出しの概要»

◇貸し出すもの

折りたたみ式ごみ箱４種（一般ごみ・あきかん・あきびん・ペットボトル）
のぼり２本（注水式ポールスタンド含む）のセット（貸し出しは最大４セット）

◇貸し出しの手順

① 電話で予約
　貸出しを受けたい日の７日前までに、担当課（資源循環課）へ電話で申し込み
② 貸出を受ける日に、担当課にて利用申請書を提出し、ごみ箱等を受け取る。
　貸出しの期間は７日以内。貸出しの際は、イベントの内容がわかる書類（チラシや回覧等）と貸出しの対象者（ページ下部「貸出の対象者」の項目をご覧ください）の身分を証する書類（免許証等）の提示が必要。
③ 担当課へごみ箱などを返却、併せて利用報告書を提出（ごみ箱などは返却前に要清掃）

◇貸し出しの対象者

- 市内に存する町会・自治会・共同住宅の管理組合
- 市内で活動を行う団体
- 市内で事業活動を行う事業者

▲ごみ分別用ごみ箱及びのぼりの使用例

●その他

出典：川口市 HP（https://www.city.kawaguchi.lg.jp/soshiki/01100/040/3/1965.html）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	**散乱させない**	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	**ごみ箱**	清掃活動

No. 18	**イベントごみ減量マニュアル**
関係自治体等	千葉県　松戸市
実施年度等	2016 年 11 月～現行

【 取組の概要 】

松戸市では、イベント開催時における環境配慮の取り組みについて、イベントごみの減量対策を中心に取り上げた「イベントごみ減量マニュアル」を作成し、公開している。

マニュアルの内容を例に、イベント主催者の創意工夫による環境にやさしいイベントの開催を呼び掛けている。

●実施内容

イベントの開催時には多くの人が集まり経済的にプラスに働くが、一方で多くのごみが発生し、環境に負荷がかかってしまうというマイナスの面もある。

イベント時に、ごみの減量化のための取り組みや環境への配慮を積極的に PR することで、様々なイベントをその参加者に対する啓発の機会にできることから、松戸市ではイベントごみの減量に関するマニュアルを作成し、イベント時における環境配慮の取り組み例を紹介している。なお、掲載事項を例に、イベント主催者の創意工夫による環境にやさしいイベントの開催を求めている。また、イベント時に発生するごみは事業系ごみであることから、主催者の責任において適正に処理される必要があることについても啓発している。

«マニュアルの掲載内容（概要）»

◇マニュアルの使い方

◇イベント時のごみを減らすためのステップ

① 運営者、スタッフによるごみを出さない工夫について
- 飲食物を提供するブースを出店する際には、食材の下ごしらえを事前に済ませておくことで会場でのごみ発生を抑制
- スタッフ等の食事に使い捨て容器ではない弁当箱を使用している仕出し弁当を選択

② 参加者への協力の呼びかけについて
- ごみの持ち帰りについての呼びかけの実施（事前、当日）
- マイバッグ持参の呼びかけ

③「分別ステーション」の設置
スタッフが常駐する「分別ステーション」について紹介。
参加者に分別の呼びかけたり分別方法の説明をすることができる。

④ リユース食器の活用
繰り返し使用できる容器の使用を促すと同時にリユース食器の導入を検討しているイベント主催者へ向けた情報を掲載。

◇イベントごみの処理について

事業系廃棄物であるイベントごみの適正処理の方法の紹介
（市の処理施設への自己搬入/一般廃棄物処理業者などへの有料委託）

▲松戸市　イベントごみ減量マニュアル（一部抜粋）

●その他

出典：松戸市 HP
（https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/gomi_shinyou/jigyousyokeigomi/ibentogomi.html）

アプローチ	ポイ捨てさせない	不法投棄させない	**散乱させない**	ごみを拾う

取組内容	看板	プランター	除草	ごみ袋	監視強化	害獣対策	**ごみ箱**	清掃活動

No. 19	**自販機横"新機能リサイクルボックス"の新たな形での導入促進に向けた実証事業**
関係自治体等	広島県　など
実施年度等	2024 年 11 月～12 月

【 取組の概要 】

広島県では、2021 度に全清飲等と連携して実施した実証実験にて、広島市内を中心に設置した新機能リサイクルボックスの効果を検証。散乱防止効果等を確認したことを受け、2024 年度には同様の効果を他地域（観光地や景観配慮区域等）に拡大していくことを目的に、観光地や景観配慮が必要な地域などにおいて、新機能リサイクルボックスを軸とした①散乱防止効果の面的拡大（導入促進）、②適切な分別回収の促進　に向けた実証実験を実施した。

●実施内容

事業は、「瀬戸内海プラごみ対策ネットワーク」（瀬戸プラネット、環境省と大阪府をはじめとする関係 14 府県によるネットワーク）の重点アクションの一環として実施。得られた検証結果は関係府県に共有するとともに、各地域での導入拡大に向けた検討材料とした。

▲新機能リサイクルボックス（RB）
(左)過年度実証実験、(右)2024 年度実証実験

«事業の概要»

- 2021 年度から、全清飲と広島県が都市部（広島市内など）を中心に実証実験してきた自販機横新機能リサイクルボックス（RB）の散乱防止効果等を、観光地や景観配慮区域等の他地域にも拡大させていくため、カッティングシール等で周囲の景観と調和したデザインに新たにアレンジ。
  統一的なデザインとして汎用性を持たせた上で、自販機横新機能 RB の導入を進めていく取組。
- 回収対象外のごみ（紙、プラスチックカップ等）は、周辺に設置されているごみ箱への誘導や持ち帰りを促すとともに、ペットボトルの３分別（ボトル、キャップ、ラベルの分別）や飲み残しの削減について、ナッジ等を活用したイラストや POP で掲出・可視化することで、適切な分別とペットボトルの３分別をどれほど促すことができるのか、その効果を検証。

▲新機能 RB に貼付した啓発シール

実施期間：2024 年 11 月 18 日～12 月８日（約１か月間）
① 既存リサイクルボックスでの事前測定（現状把握）　11 月 11 日～11 月 17 日
② デザイン付新機能リサイクルボックスの効果検証　　11 月 18 日～12 月８日
実施場所、定点観測数：計９台（宮島口周辺６カ所７台、鞆町周辺３カ所３台）

«実証試験結果（一部抜粋）»

- ９箇所のうち、置き換え後に散乱状況が改善した箇所が３箇所であったのに対し、置き換え後に散乱が確認された箇所が１箇所あった。
- 散乱状況が改善された箇所は異物や飲み残しの混入率も改善されており、異物混入率の低減が散乱状況の改善に寄与する相関性を確認。

	宮島口1	宮島口2	宮島口3	宮島口4	宮島口5	宮島口6	鞆の浦1	鞆の浦2	鞆の浦3
散乱状況	○	○	－	－	△	－	－	－	○
異物混入率	－	○	△	△	－	△	－	－	○
飲み残し率	－	○	△	○	○	－	△	－	○
3分別率	－	－	－	－	－	○	－	－	－

▲(左)デザイン付き新機能 RB 置き換え後の状況変化
○：改善　△：悪化　―：現状維持

- 飲み残しの発生状況は、個数及び重量ともに減少⇒ 啓発資材の効果があったものと推察される。

●その他

出典：一般社団法人　全国清涼飲料連合会 HP（https://www.j-sda.or.jp/news/2024/11/28/post-1146/）

アプローチ　ポイ捨てさせない　不法投棄させない　**散乱させない**　ごみを拾う

取組内容　看板　プランター　除草　ごみ袋　監視強化　害獣対策　**ごみ箱**　清掃活動

No. 20	**海へのプラスチックごみ流出抑制に向けたテイクアウトカップ回収等のモデル事業**
関係自治体等	大阪府　など
実施年度等	2024 年 12 月～2025 年 1 月

【 取組の概要 】

「瀬戸内海プラごみ対策ネットワーク」（瀬戸プラネット、環境省と大阪府をはじめとする関係 14 府県によるネットワーク）の令和 6 年度重点アクションとして、環境省と大阪府が連携し、テイクアウトカップ専用回収ボックスの設置や啓発ポスターの掲示などの実証実験を実施した。

●実施内容

大阪湾を含む瀬戸内海は、閉鎖性海域で陸から流れ出たごみが溜まりやすく、地域全体で効果的な対策を進めていくため、2023 年 10 月、環境省と大阪府をはじめとする関係 14 府県は「瀬戸内海プラごみ対策ネットワーク」(瀬戸プラネット)を立ち上げた。同ネットワークにて、海洋プラスチックごみ削減についての課題共有、実態把握、モデルとなる取組などを連携して行い、きれいで豊かな瀬戸内海を守るために取り組みを進めており、令和 6 年度重点アクションとして、アジア太平洋トレードセンター（ATC）株式会社と連携のもと、以下の要領で実証実験を実施した。

«実証実験»

◇テイクアウトカップ専用回収ボックスの設置検証

テイクアウトカップ専用の回収ボックスを設置個所（店舗外）に設置し、どの程度回収できるのか調査を実施。

- 設置個所：ATC　ITM 棟　2 階　3 箇所
- 設置期間：2024 年 12 月 15 日～28 日

※設置期間のうち、2024 年 12 月 22 日～28 日については、「カフェ・ド・クリエ ATC 店」でのテイクアウトドリンク購入者に対し、先渡しの特典（ドーナツ）を渡すとともに回収への協力を呼びかけ、働きかけの効果検証を実施。

▲(左)テイクアウトカップ専用回収ボックス設置図、(右)テイクアウトカップ専用回収に関する啓発物

◇ペットボトルリサイクル「ボトル to ボトル」推進啓発ポスターの掲示

ペットボトルの水平リサイクルの取組である「ボトル to ボトル」推進のため、設置個所にあるペットボトルリサイクルボックスに、正しい捨て方を案内するポスターを掲示し、回収状況の調査を実施。

- 設置個所：ATC　ITM 棟・O's 棟　2 階　8 か所
- 設置期間：2024 年 12 月 22 日～2025 年 1 月 10 日
-

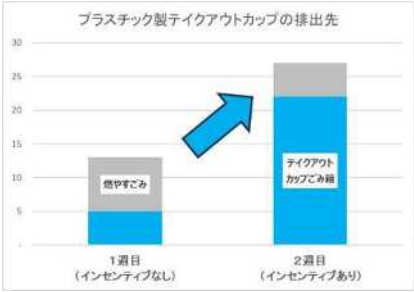
«実証試験結果（一部抜粋）»

■実証期間中の容器回収数

1 週目（働きかけ無し）に対し、2 週目（働きかけ有り）ではプラスチック製、紙製いずれのカップでも回収数が増加。

■テイクアウト飲料カップの排出先の変化（右図）

1 週目（インセンティブ無し）では、テイクアウト容器の「燃やすごみ箱」への投入が多く見受けられたが、2 週目（インセンティブ有り）では専用ごみ箱に捨てられることが促され回収数が増加。



▲テイクアウト飲料カップの排出先の変化

●その他

出典：大阪府 HP（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120070/setoplanet.html）

アプローチ　ポイ捨てさせない　不法投棄させない　**散乱させない**　ごみを拾う

取組内容　看板　プランター　除草　ごみ袋　監視強化　**害獣対策**　ごみ箱　清掃活動

No. 21	**カラス対策　ごみ容器・カラスネットなどの使用**
関係自治体等	東京都　杉並区
実施年度等	現行

【 取組の概要 】

ごみ集積所などでは、カラスなどがごみを散乱させ、地域の公衆衛生や景観などに悪影響を及ぼす場合がある。杉並区では、ネット使用のほか、折り畳み式防鳥用ボックス、特殊な材料を使用した「黄色いごみ袋」などについて、配布や購入についての情報などを HP に掲載している。

●実施内容

杉並区では、カラスによる生ごみの散乱の防衛策として、以下の情報を HP 上に掲載している。

◇容器による排出

袋によって出された生ごみなどをカラスがねらい、ごみを散乱させる被害が発生しているため、
区では、ごみ出しについて、ふた付ポリバケツによる容器出しを推奨している。

容器出しは以下のような効果が期待できる。

- ごみの散乱防止の他、悪臭の防止、美観の向上などにも効果有り
- 容器をごみ集積所へ出したり、引き取ったりなどに多少の手間はかかるが、経費も余りかからず、手軽に用意ができる
- ごみの散乱が改善されれば、ごみ集積所を管理する方の負担も軽減できる

▲カラスネット（小）の使用例

◇カラスネット

区では、カラス被害に困っているごみ集積所にカラスネットを配布。

- 申込にはごみ集積所に接する方、利用する方の合意が必要。
- 使用しているカラスネットが破損した場合は新しいものを配布。
- 配布カラスネットは小、中、大の３つのサイズ

▲折り畳み式防鳥用ボックス（小）

◇折り畳み式防鳥用ボックス

区では、カラス対策用の折り畳み式防鳥用ボックスの配布・交換を実施。

- 申込にはごみ集積所に接する方、利用する方の合意が必要
- 配布は、設置した際に車両や歩行者の通行や収集作業に支障が無い集積所が対象
- 配布ボックスは小、大の２つのサイズ

◇カラス対策「黄色いごみ袋」

区では、推奨する可燃ごみ収集袋として「黄色いごみ袋」を販売。

- 「黄色いごみ袋」は、特殊な材料を使用し、カラス対策に確かな効果があるごみ袋として、区民に親しまれている。
  ※ただの黄色い袋にはカラス対策効果は認められていない。
- 販売は 20、30、45 リットルの３つのサイズ
- 区役所内販売店のほか、区内一部のスーパーやドラッグストアにて販売

▲黄色いごみ袋

●その他

出典：杉並区 HP（https://www.city.suginami.tokyo.jp/s105/723.html）